山口大学（山口県）

歴史のある美しい街、山口へ留学してみませんか

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

１）特色と歴史

山口大学は1815年、長州藩士・上田鳳陽によって創設された私塾・山口講堂を前身とし、明治・大正期の学制を経て、1949年に地域における高等教育および学問研究の中核たる新制大学として創設された。

メイン・キャンパスは山口市（人口は189,547人（2024年10月1日現在））に位置している。　山口市は自然環境に恵まれた落ちついた都市で、多くの歴史的名勝・文化的景観が残されている。

２）教員・学生数等

・教員数：1,034 名（2024年9月現在）

・学生数：学部生　　8,542 名
　　大学院生　1,447 名
　　（2024年5月現在）

② 国際交流の実績

・大学間交流協定校数：112校

・学部間交流協定校数：3校
　復旦大学
　淡江大学
　イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学

（2024年5月現在）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2024年：留学生数407人、日研生0人
2023年：留学生数428人、日研生0人
2022年：留学生数367人、日研生1人

④ 地域の特色

山口県は、本州の西の端にあり、山口大学吉田キャンパスのある山口市は「西の京」とも呼ばれ、歴史と文化の薫り漂う県庁所在地です。吉田キャンパス近くにある「湯田温泉」は、約800年の歴史と山陽路随一の規模を持つ温泉街で、一日2000tという豊かな湧出量を誇り、地元客や観光客に人気です。このほか、県内には優れた温泉地がたくさんあります。
　また、広島県、福岡県の間に位置し、どちらの都市にも新幹線で約40分で行くことができます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

・主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

・コースには日本語能力の中級話者を対象にした日本語及び日本事情の授業科目が含まれる。

・スピーキング、リーディング、ライティング能力を伸ばしながら、日本語の基礎を学ぶ。

③ 受入定員

2名（大使館推薦1名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

このコースを受講する者は、日本国以外の大学学部（来日時点で主として第2学年次以上）に在籍する学生で、日本語・日本文化研修生として、以下の要件を満たす者とする。

（１）日本語能力
日本語能力試験のＮ2ないしそれ以上の級に合格している者、または同等の日本語能力を有する者。一般的な事柄について会話ができ、基本的な文章を読み書きできること。

（２）日本研究学習歴、専攻
・日本語・日本文化に関する分野を専攻する者

⑤ 達成目標

・日常的に使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。
・日本社会、日本文化に関する研究に活用できる知識を身につける。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2025年10月1日　～ 2026年9月30日

⑦ 奨学金支給期間

2025年10月　～　2026年9月

⑧ 研修・年間スケジュール・

9月下旬：渡日
　　オリエンテーション

11月：留学生交流会

9月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

本コースの必修科目（前期7科目、後期7科目）を全て履修し、各自の課題研究をまとめた論文を提出した者には、成績証明書を発行する。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

１）研修・コース科目の特徴

・コースには日本語能力の中級話者を対象にした日本語及び日本事情の授業科目が含まれる。

・スピーキング、リーディング、ライティング能力を伸ばしながら、日本語の基礎を学ぶ。

２）研修・コース開設科目

Ⅰ）必須科目

【日本語演習Ａ】（前期30時間／後期30時間）
演習形式、使用言語：日本語
単語や文法の知識を基に、特に「聞く」「話す」能力を育成し、日常生活におけるより一層のコミュニケーション能力の向上を目指す。また、学習内容のトピックに関連した簡単な新聞記事も読めるようにする。

【日本語演習Ｂ】（前期30時間／後期30時間）
演習形式、使用言語：日本語
表現文型・文法を学び、日本語の運用能力を高める。特に助詞が正しく使えるようになることを目指す。また、その日のテーマに関連したディスカッションから書く練習へと発展させ、文章作成能力のレベルアップを図る。

【日本語演習Ｃ】（前期60時間／後期60時間）
演習形式、使用言語：日本語
いろいろなジャンルの新聞記事、エッセイ、小説などを読み、日本語の様々な文体に慣れる。楽しく読むことができ、かつ読めたという体験を持たせ、長文の速読速解能力の向上を目指す。

【日本事情】（前期30時間）
講義形式、使用言語：日本語
日本の文化、習慣、教育、政治、経済など日本についての基本的な事項を各種のメディア　（新聞、雑誌、テレビ、インターネット等）から取り上げ、講義し、その日のテーマについてディスカッションを行う。

【異文化を学ぶ】（後期30時間）
講義形式、使用言語：日本語
日本文化に関する様々なテーマについて学習する（例：日本の漫画、アニメ、音楽、遊び、芸術、社会）。フィールドワーク作業、ビデオ教材等を含めることで、言葉では説明しにくいものを感覚的に理解出来るように配慮する。

Ⅱ）選択科目

さらなる勉学・研究のために、日本語の仕組み、日英語の違い、日本の音楽、日本の歴史、日本の工芸等の教育学部開講の授業に参加することができる。
留学生の日本語能力の向上の程度を勘案して、日本語のドリル及び日本文化に関する補講を行うことがある。
教育学部が開設する授業に加え、本学には共通教育科目として、すべての学部に在籍する留学生を対象にした日本語・日本事情関係の授業が開講されている。日本語能力テストの結果に応じてこれらの授業を履修することも可能である。

３）研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

特筆すべきものはなし

４）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

特筆すべきものはなし

⑪ 指導体制

・責任教員　猫田　和明
（学生国際交流ワーキング座長）

・学生の所属：教育学部

・指導教員：希望に合わせて専門分野の教員又は、国際交流に関わる教員が指導を担当する。

■宿　舎

原則として、山口大学の敷地内にある留学生用宿舎「国際交流会館」へ入居可能である。

※過去3年間の入居実績：　0名（2024年）
0名（2023年）
1名（2022年）

※留学生用宿舎の詳細については以下のURLを参照

https://www.yamaguchi-u.ac.jp/isc/candidates/dormitories/index.html

■修了生へのフォローアップ

修了生へのフォローアップについては、研修期間の指導状況に合わせ、指導教員が行う。

■問合せ先

＜担当部署＞

・山口大学教育学部学務係
住所：〒753-8513
山口県山口市吉田1677-1
TEL：+81-83-933-5307
FAX：+81-83-933-5468
E-mail：info-g@yamaguchi-u.ac.jp

担当教員：猫田　和明
（准教授・学生国際交流ワーキング座長）
E-mail：nekoda@yamaguchi-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞

山口大学ホームページ：
https://www.yamaguchi-u.ac.jp/

山口大学留学生センターホームページ：
https://www.yamaguchi-u.ac.jp/isc/

香川大学 （香川県）

地域に根ざした学生中心の大学

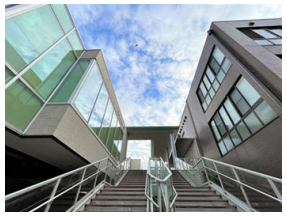
■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1）概要
香川大学は1949年に設置されました。2003年10月にそれまでの香川大学と香川医科大学が統合され、新しい香川大学となりました。教育学部、法学部、経済学部、医学部、創造工学部および農学部の6つの学部を持つ総合大学です。修士課程は、創発科学研究科（教育学、法学、経済学、工学的分野を含む）、医学系研究科、農学研究科を、博士課程は、医学系研究科、創発科学研究科、連合農学研究科を、また、専門職学位課程は、教育学研究科、地域マネジメント研究科を有しています。

2）学生数・教員数（2024年5月1日現在）
・学部学生数：5,669人
・大学院学生数：789人
・教員数：644人
・職員数：1,258人

（香川大学概要2024-2025より）



② 国際交流の実績
2024年5月の時点で、56の大学や機関と大学間協定、40の大学や機関と部局間協定を締結して、世界中の大学と学術交流や学生交流を実施しています。
加えて、8団体との連携協力協定も締結して、複数大学間での国際的な協力体制を築いています。
（香川大学概要2024-2025より）

3大学合同シンポジウム（タイ）

学生交流プログラム（インドネシア）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2024年：留学生数200人、日研生1人（10月時点）
2023年：留学生数183人、日研生3人
2022年：留学生数164人、日研生4人
（日研生出身国：韓国、タイ、キューバ、メキシコ、ブラジル）

④ 地域の特色
香川県は、四国の北東部に位置します。瀬戸内海に面しており、四季を通じて降水量が少なく、温暖な気候です。
香川県で最も有名なのは、おそらくうどんですがオリーブやうちわなども有名です。
皆さんが住む予定の高松市は、コンパクトシティーと言われています。日本一長い商店街のなかにたくさんの商店があり、自転車で行くことができる範囲でなんでも揃います。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的
a)主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色
本コースは、日本文化、特に香川県に関する知識の習得、そしてそれらの知見を実践的に活用する能力の向上を目的としています。そのため、それに必要な日本語力の向上の機会も提供されます。

③ 受入定員
5名（大使館推薦3名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

・ＪＬＰＴ：Ｎ２以上、または同等の日本語能力を有すること。
・国費留学生として、各種交流活動や本学の国際化のための活動に積極的に参加すること。

⑤ 達成目標

・Ｎ１または同等以上の日本語能力を習得する。
・日系人枠の受講者の場合は、Ｎ３または同等以上の日本語能力を習得することを目指す。
・各種プレゼンテーションを含む、日本語の実践的能力を向上させる。
・香川県に関するトピックを自ら選定し、レポートとしてまとめることができる。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2025年9月下旬 ～ 2026年8月下旬
（在籍期間：2025年10月1日～2026年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2025年10月　～　2026年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

※日程は年度により変わります。

9月　渡日
10月　新入留学生ガイダンス、開講式
11月　大学祭
12月　ホームビジット
1月　留学生のつどい
2月　ビジネスマナー講座
7月　日帰り島旅行
8月　修了式

8月下旬：帰国

他にも交流や学習のためのイベントが行われます。

学生によるプレゼンテーション

授業で学生交流

⑨ コースの修了要件

本コースの修了要件は、授業の履修（⑩参照）および最終レポートです。最終レポートは、日本（特に香川）や日本文化に関するテーマを選び、指導教員とよく相談しながら、論文の形に仕上げます。
これらの条件を満たした修了生には、修了証書を発行します。履修登録した個々の授業に関しては成績証明書が発行されます。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

１）研修・コース科目の特徴
日本語の基礎能力を向上しつつ、本人のレベルや興味に応じた受講ができること。
受講する科目の数等については指導するが、科目自体については自国の所属大学における専門ないし既習科目と関連する科目も受講可能であり、より深いレベルでの日本文化研修が可能となる。

２）研修・コース開設科目
Ⅰ）必須科目
日本語Ｉｃ（15コマ、22.5時間）
・・・中上級レベルの作文
プロジェクトさぬき（8コマ・12時間）
・・・香川県の課題に関するプロジェクトワーク、日本人学生との共修

Ⅱ）選択科目
上記以外の日本語科目（15コマ、22.5時間）
・・・中上級～超級の4技能（読む・書く・聞く・話す）
日本事情科目（8コマ、12時間　または15コマ、22.5時間）・・・日本の文化・社会・歴史・国際貢献などについて学ぶ

必修科目・選択科目を合わせて各学期週7科目以上を受講する。取得単位数は履修科目による。（1科目1単位または2単位）

３）研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

基本的には、本学の場合はこの種の科目は学部における正規生が対象なので、本研修での参加は認められないが、授業以外に各種の地域交流を多数用意している。「⑧研修・年間スケジュール」を参照。

４）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

上記２）Ⅰ）の「プロジェクトさぬき」。
その他、選択した場合には日本語による共通科目や専門科目。

⑪ 指導体制

学術的な指導は、指導教員により行われます。インターナショナルオフィスの高水徹・塩井実香のいずれかが指導教員となります。

生活面での指導や支援は、インターナショナルオフィスが担当します。

また、学生によるサポート体制も整っており、サポーター、チューターがそれぞれ生活面と学習面で支援します。

海岸でのフィールドワーク

日研生が自分の国について説明

■宿　舎　（2024年10月現在）

香川大学には、２つの留学生宿舎があります。
入居については本コースの申請時にお尋ねください。

・花園寮　（室料 ¥22,500/月）
・留学生会館（屋島）　（室料 ￥ 7,400/月）

（ウェブサイト-香川大学留学生宿舎）

花園寮
https://www.kagawa-u.ac.jp/files/5116/5655/9308/hanazono_nyukyobosyu.pdf
留学生会館（屋島）
https://www.kagawa-u.ac.jp/files/9712/8270/9953/outline%20of%20house.pdf

過去3年間の日研生の宿舎入居状況
・2024年度：花園寮　1名
・2023年度：花園寮　3名
・2022年度：留学生会館　2名
　　花園寮　2名

留学生会館（屋島）

花園寮

宿舎での流しそうめん

■修了生へのフォローアップ

本コースは1年で帰国することを前提としていますが、さらに本学の大学院進学等のため、各部局に問い合わせることが可能です。

また、いくつかの国や地域に関しては、すでに帰国留学生ネットワークが形成されています。

その他、SNSを通した交流も行われておりますので、下記のFacebook等をご参照ください。

■問合せ先

＜担当部署＞
香川大学教育・学生支援部国際課

住所：〒760-8521
　　香川県高松市幸町1-1
TEL：　+81-87-832-1149（直通）
FAX：　+81-87-832-1192
Email：ryugaku-h@kagawa-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞
香川大学
https://www.kagawa-u.ac.jp/

香川大学インターナショナルオフィス
https://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/

日研生向けページ
https://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/isc/study_in_kagawa/jss/

香川大学留学生センターFacebook
https://www.facebook.com/KUISC

高知大学（高知県）

地域・国際社会に貢献しうる人材育成と学問・研究の充実・発展を推進

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

高知大学は、人文社会科学部、教育学部、理工学部、医学部、農林海洋科学部及び地域協働学部の6つの学部と大学院総合人間自然科学研究科に人文社会科学専攻、理工学専攻、医科学専攻、看護学専攻、農林海洋科学専攻、地域協働学専攻、スポーツ・芸術文化共創専攻の7つの修士課程、応用自然科学専攻、医学専攻、黒潮圏総合科学専攻の3つの博士課程及び教職実践高度化専攻（教職大学院）を有し、特徴的な教育・研究を行っています。

キャンパスは、高知市の朝倉キャンパスと南国市の物部キャンパス及び岡豊キャンパスの3つがあり、日本語・日本文化研修留学生は、朝倉キャンパスに通います。

② 国際交流の実績

大学間協定校―61機関（20か国・地域）
部局間協定校―28機関（19か国・地域）
コンソーシアム協定―1（5機関、2か国）
※令和6年5月1日時点

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2024年：留学生数114人、日研生1人
2023年：留学生数93人、日研生1人
2022年：留学生数79人、日研生1人
※各年5月1日時点

④ 地域の特色

高知県は、西日本に位置する四国の南部にあります。北は四国山脈がつらなり、南は太平洋に面しています。年間を通じて暮らしやすい温暖な気候で、四季折々の豊かな自然を楽しむことができます。

地方文化にも恵まれています。自由民権運動発祥の地として、近代日本の形成に大きな役割を果たした土地でもあります。

高知市街には美しい鏡川が流れ、市内随所に歴史的な観光名所があります。

日本の主要都市からの所要時間は、空路を利用すれば大阪空港まで45分、東京（羽田）空港まで1時間20分です。そのほか、福岡、名古屋、神戸へも国内便があります。空路のほかにも、長距離バス、鉄道などが利用できます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

留学生科目として、「日本語」、「日本事情」の科目を履修するとともに、専門科目に関しては、「異文化理解」や「外国語としての日本語演習」などを履修することができます。

また、基礎的な日本語力や日本文化などを広く学びたい留学生のためには、グローバル教育支援センターが開講している日本語総合コースの授業も受講できます。

日本語の実践的な運用能力を習得するとともに、専門授業を通して多文化共生力を養うことができます。

③ 受入定員

2名（大使館推薦1名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

1）日本語能力

日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験（JLPT）」N1、N2保持者またはこれと同等の日本語能力を有する者

※N2レベルの者は渡日後、グローバル教育支援センター開講の日本語総合コース（単位不認定科目）を受講すること

2）日本研究学習歴・専攻

日本語・日本文化に関する分野の専攻者

⑤ 達成目標

・日本語による討論と論文作成能力の習得
・母国では実施できない研究の遂行
・修了レポートを作成し報告会にて発表

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2025年10月上旬 ～ 2026年8月下旬
（在籍期間：2025年10月1日 ～ 2026年8月31日）
（修了式は2026年8月を予定）

⑦ 奨学金支給期間

2025年10月　～　2026年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬　渡日
10月　新入留学生オリエンテーション
11月　外国人留学生課外研修
　　黒潮祭（大学祭）
1月　地域との交流活動
5月　地域との交流活動
6月　日本語講演会
8月　修了式
8月下旬　帰国

その他
地域の国際交流団体などが主催する留学生向け各種イベントを紹介します（ホームステイ、着物着付け体験、紙すき体験など）。
地域住民と交流できるイベントにも参加できます。

⑨ コースの修了要件

・必修科目14単位、選択科目を含め14単位以上を取得する必要があります。
・研究報告書作成並びに研究発表会修了時には、「修了レポート」を提出し、指導教員の合格判定を得なければなりません。
・早期修了不可。
・成績証明書の発行可

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

日本語能力の向上を図るとともに日本事情・日本文化に関する研修を行い、アカデミック日本語能力の向上並びに日本文化に対する理解を深めます。また、高知の地域文化に触れ、体験活動を通して、日本語・日本文化研修留学生の目線から地域振興にも貢献できる人材育成をめざします。

※単位認定について
学期（2学期制）毎に単位認定を行ってます。

1）研修・コース科目の特徴

留学生は、必修科目に加え、個人の学習・研究テーマに合わせて共通教育科目や学部専門科目から授業を選択することができます。

2）研修・コース開設科目
Ⅰ）必須科目（9コマ）・内容
日本語Ⅱ（2コマ／週）・・・上級日本語
日本事情Ⅲ・・・日本の文化を学ぶ
異文化理解・・・日本人学生との共修
外国語としての日本語演習・・・
　　日本人学生との共修
日本語Ⅲ（2コマ／週）・・・上級日本語
日本事情Ⅳ・・・日本の文化を学ぶ
地域文化理解・・・地域の文化を学ぶ

Ⅱ）選択科目（7コマ）・内容
日本語Ⅰ（2コマ／週）・・・上級日本語
日本事情Ⅰ・・・日本文化を学ぶ
日本事情Ⅱ・・・日本文化を学ぶ
日本語特別演習・・・日本語文法を学ぶ
外国語としての日本語・・・
　　日本人学生との共修
外国語としての日本語基礎論・・・
　　日本人学生との共修

3）研修科目で地域の見学や地域交流等に参加できる科目及びその具体的な内容

必修科目の「地域文化理解」は体験型授業として設定されており、地元住民との交流を通して地域の文化を体験し理解するとともに、日本人学生との共修の中で、地域課題・地域振興を考えられる内容構成となっています。

4）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

必修科目の「異文化理解」、「外国語としての日本語演習」、「地域文化理解」など複数の科目で日本人学生と共修します。いずれの科目も日本人学生と共修することにより、異文化や地域文化、日本語の仕組みなどをより幅広い視点で学べる内容になっています。

～グローバル教育支援センター開講科目～

グローバル教育支援センターでは、「日本語能力試験」N2程度の留学生に対する日本語総合コースの授業（単位不認定科目）を開講しています。日本語・日本文化研修留学生のうち、日本語能力が不十分で、日本語総合コースの受講を必要とする留学生は受講することができます。
グローバル教育支援センターによる日本語総合コース（日本語補講）で開講している科目は以下の通りです。
【日本語総合コース授業科目】
中級聴解Ⅰ＆Ⅱ（30時間×2）
中級会話Ⅰ＆Ⅱ（30時間×2）
中級漢字・語彙Ⅰ＆Ⅱ（30時間×2）
中級読解（30時間）
中級作文Ⅰ＆Ⅱ（30時間×2）
コミュニケーション日本語Ⅰ＆Ⅱ（30時間×2）
ビジネス日本語（30時間）

⑪ 指導体制

コース責任教員：グローバル教育支援センター長

コース担当教員：グローバル教育支援センター教員
人文社会科学部教員

研修留学生指導教員：各研修留学生に担当の指導教員が設けられ、必要に応じて個別指導を行います。

■宿　舎

朝倉キャンパスには、留学生専用宿舎がないため、多くの留学生が民間アパートに入居しています。家賃20,000円～45,000円のアパートに入居している留学生が多いです。
※初期費用として月額家賃の4か月分程度が必要です。

民間アパートに入居するには、多くの場合、連帯保証人が必要です。連帯保証人が見つからないときは保証会社を利用することとなります。

女性の方で寮を希望する場合は、単身用女子寮に入居できることがあります。

【単身用女子寮】
寮費：約 8,300円／月
設備：机・椅子・ベッド・ロッカー・本棚・共同自炊設備・共同バス・トイレ
場所：キャンパスから寮まで自転車で10分

キャンパス周辺は、食料品店や飲食店が多くあり、生活に便利な場所です。

■修了生へのフォローアップ

修了後もメールなどで連絡を取り合い、日本語・日本文化研修留学生が協定校出身者の場合は可能であれば教員が協定校を訪問し、留学後の学習状況について懇談を計画しています。

■問合せ先

＜担当部署＞
高知大学学務部国際教育支援室留学支援係

住所：〒780-8520
高知県高知市曙町2-5-1

TEL：　+81-88-844-8683（直通）
FAX：　+81-88-844-8718
Email：　gi05@kochi-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞
高知大学グローバル教育支援センター：
www.kochi-u.ac.jp/international/
高知大学：
www.kochi-u.ac.jp/

九州大学 （福岡県）

充実した日本語クラス・豊富な実地見学・学部授業自由選択

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

九州大学は、東京、京都、東北帝国大学に次ぐ4番目の帝国大学として1911年に創立されました。

現在、約19,000人の学生と約8,000人の教職員が在籍し、12学部、19学府、国内最大級の大学病院や附属図書館などを保有しています。

九州大学には、主に４つのキャンパスがあり、総合科学の中枢・実証実験拠点としての伊都キャンパス、生命医療科学拠点としての病院キャンパス、先端科学融合拠点としての筑紫キャンパス、先端デザイン拠点としての大橋キャンパスが、それぞれ特色ある研究や教育を展開しています。

2011年には創立百周年を迎え、「自律的に改革を続け、教育の質を国際的に保証するとともに、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究教育拠点となる」ことを基本理念とし、「九大百年，躍進百大」、すなわち、すべての分野において世界のトップ百大学に躍進することを行動計画として掲げている。また、九州大学は、九州の玄関口、福岡に位置することから、地理的・歴史的にアジアに近く、開学当初から「アジアに開かれた大学」を標榜している。

【学部】共創学部、文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、芸術工学部、農学部

【大学院】人文科学府、地球社会統合科学府、人間環境学府、法学府、法務学府（法科大学院）、経済学府、理学府、数理学府、システム生命科学府、医学系学府、歯学府、薬学府、工学府、芸術工学府、システム情報科学府、総合理工学府、生物資源環境科学府、統合新領域学府、マス・フォア・イノベーション連係 学府

② 国際交流の実績

【交流協定締結数】（2024.10.21現在）

〈学術交流協定〉

大学間：153機関（36ヶ国・地域）

部局間：294機関（45ヶ国・地域）

〈学生交流協定（覚書）〉

大学間：143機関（34ヶ国・地域）

部局間：245機関（39ヶ国・地域）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2024年：留学生数2,569人（2024.5.1時点）
日研生13人（内、私費留学生10人）

2023年：留学生数2,526人（2023.5.1時点）
日研生12人（内、私費留学生10人）

2022年：留学生数2,361人（2022.5.1時点）
日研生4人（内、私費留学生2人）

④ 地域の特色

九州大学がある福岡市は、九州の北部に位置し人口約165万人の商業・貿易都市であり、地理的・歴史的に日本とアジア地域を結ぶ窓口としての機能を果たしている。

九州大学は、福岡市の中心地である博多からは電車やバスで約45分、天神からは約40分、福岡空港からは約50分とアクセスがよい。

また、隣接している糸島市は自然やレジャーに富み、週末は市民の人気スポットとなっている。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a)主に日本事情・日本文化に関する研修

日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行うもの。

九州大学日本語・日本文化研修コースは、留学生センターが開設するもので、日本語・日本文化研修留学生が、今後の日本研究に必要となる日本語能力の向上を図るとともに、日本の社会や文化に関する理解を深めることを目的としている。

② 研修・コースの特色

日本語・日本文化研修留学生は、留学生センターに所属し、留学生センターで開講する「日本語論」「日本社会文化論」及び「自主研究」の必修科目と各自の日本研究に関する専攻分野と日本語能力に応じて、文学部、経済学部、法学部などで開講される日本の社会や文化に関する学部学生向けの授業を選択科目として受講することができる。

さらに、留学生センターで開講する技能別の日本語の授業（総合、漢字、会話、作文）も受講することができる。

③ 受入定員

30名（大使館推薦2名程度、大学推薦1名程度、他私費留学生）

＜授業風景＞

④ 受講希望者の資格、条件等

本コースは、日本国以外の大学に在籍し、日本研究を主専攻としている学部学生(1年次生を除く)で、既に基礎的な日本語の学習を終え、本学において日本語で行われる日本の社会や文化に関する授業を受講できる日本語能力（日本語能力試験N1合格程度が望ましい）を有する者を対象とする。

⑤ 達成目標

本コースでは、上記④の資格、条件を満たす学生を11ヶ月間受け入れ、彼らの今後の日本研究に必要となる日本語能力の向上を図るとともに、日本の社会や文化に関する理解を深めることにより諸外国の将来を担う世代に日本への興味・関心を伝播し、日本の事情に通じた指導者となる人材を育成することを目的としている。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2025年10月上旬～2026年8月下旬
（在籍期間：2025年10月1日～2026年8月31日）
※2025年9月下旬にオリエンテーション実施
※閉講式は2026年8月上旬実施予定
※8月上旬授業終了後、 8月末まで自主研修期間
※選択科目にて集中講義受講可能

⑦ 奨学金支給期間

2025年10月　～　2026年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日
9 月　　オリエンテーション
10月　　開講式、秋学期開始
11月　　地域住民との交流会
12月　　座禅体験
2 月　　秋学期終了、歌舞伎鑑賞
4 月　　春学期開始、日田見学旅行
5 月　　吉野ケ里見学旅行
6 月　　歌舞伎鑑賞
8 月　　春学期授業終了、閉講式
　　自主研修期間(授業終了後から8月末まで自主研修期間)
8月下旬　帰国

⑨ コースの修了要件

必修科目2単位（30時間）、選択必修科目24単位（360時間）及び選択科目4単位（60時間）、合計30単位（450時間）以上の修得を修了要件とし、本学留学生センター委員会にて成績・修了認定を行う。認定された成績の証明書を発行するほか、要件を満たしたコース生には、修了証書を授与する。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1）研修・コース科目の特徴

本コースでは、「日本語論」及び「日本社会文化論」科目に加えて、留学生センターで開講する技能別・レベル別の日本語クラスを受講することができる。

2）研修・コース開設科目

	授業科目	第1期（10-3月）	第2期（4-8月）
必修科目	自主研究		2単位（30時間）
選択必修科目	日本語論	12単位（180時間）	
	日本社会文化論	12単位（180時間）	

Ⅰ）必須科目
【自主研究】：文献講読または社会調査

Ⅱ）選択必修科目
【日本語論】：
応用日本語、研究方法論、日本語・日本文化概論、日本社会と地域方言、ジグソー法で学ぶ身近な日本学、ドキュメンタリー番組で学ぶ日本語、映画・ドラマに見られる日本文化と日本語

【日本社会文化論】：
日本の宗教と社会、和菓子と日本人、音楽文化にみる日本、ドラマで学ぶ日本の歴史、4コマ漫画にみる日本、日本の宗教文化、九州学

III)選択科目：
本学学部生対象開講科目から選択。主に、文学部、法学部、経済学部等の科目を履修。

3） 見学、地域交流等の参加型科目

コースの教育活動の一環として、日本の文化や歴史、自然に触れる見学旅行を実施するほか、自治体や小学校訪問等を通じて地域交流を行う。

4） 日本人学生との共修の機会
選択科目として本学学部学生と同じ授業を履修する。履修科目は、多数の開講科目から、各自の日本研究に関する専攻分野に応じて選択する。

5） その他の科目等
学生たちの多様なニーズに応えるため、カリキュラムの一環として、報道関係者、日本文化研究者をゲストティーチャーに招き、講演会を行っている。今後は、企業経営者等福岡県内にて活躍するさまざまな方へ依頼することも計画している。

また、各自の日本語能力レベル及び技能に応じて、留学生センターで開講する以下の日本語クラスを履修することができる。

Level	Integrated Courses	Kanji	Speaking	Writing
Beginners	I1	K2		
Elementary I	I2		S2	
Elementary II	I3	K3	S3	
Pre-Intermediate	I4	K4	S4	
Intermediate I	I5	K5	S5	W5
Intermediate II	I6	K6	S6	W6
Pre-Advanced	I7	K7	S7	W7
Advanced	I8	K8	S8	W8

⑪ 指導体制

日本語・日本文化研修留学生には、留学生センターコース・コーディネーターが各自の学業面等について個別指導にあたる。

さらに、生活面や異文化適応に関しては、留学生指導に関する専門の教員が適宜対応する。

加えて、学生レベルでのサポート体制として、本学学生によるチューターを1名ずつ配置し、日常生活や修学上のサポートを行うとともに、日本人学生との交流が図れるような環境を整えている。

＜スタディトリップ＞

＜スタディトリップ＞

■宿　舎

日本語・日本文化研修留学生は、コース期間中、留学生用宿舎に入居できる。

宿舎は、バス、トイレ、机、書棚、ベッド、収納棚、冷蔵庫、エアコン備付、インターネット接続可能（別途申込要）。

＜ドミトリーI及びII＞
※伊都キャンパスの留学生・日本人混住宿舎

＜スタディトリップ＞

■修了生へのフォローアップ

九州大学日本語・日本文化研修コースは、本学の英語による短期留学プログラムであるJTW（Japan in Today’s World）とともに、日本語による短期留学プログラムとして国内外で高い評価を得ている。また、本コース修了者の満足度は高く、その多くが在籍大学卒業後、再び本学や日本の大学院に進学したり、日本企業に就職する等している。

■問合せ先

＜担当部署＞
九州大学国際部留学課受入戦略係
住所　〒819-0395
福岡県福岡市西区元岡744
TEL　＋81-92-802-2291（直通）
FAX　＋81-92-802-2287
E-mail: intlr-isc@jimu.kyushu-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞
日研生ホームページ
http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/jlcc/

九州大学留学生センターホームページ
https://isc.kyushu-u.ac.jp/center/

九州大学ホームページ
http://www.kyushu-u.ac.jp/

福岡教育大学 （福岡県）

7つの附属学校園を持つ大学で日本文化を福岡で学ぶ

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

大学の特色及び概要

本学は、九州で唯一の教員養成単科大学で、教育学・心理学・特別支援教育・各教科教育学の外、人文・社会・自然・芸術・スポーツ科学・家政学等、教科内容に関する多様な専門学術分野の教員を擁する大学です。令和5年度よりグローバルラーニングセンターを立ち上げ、受入留学生の支援も行っています。

〇学生・教員現員（2024年5月1日現在）

学生	学部レベル	2568人
	大学院レベル	99人
教員		161人

② 国際交流の実績

・外国人留学生数　8人（3カ国）
・国際交流協定校　9校

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2024年：留学生数8人、日研生1人
2023年：留学生数8人、日研生2人
2022年：留学生数7人、日研生2人

④ 地域の特色

大学が所在する宗像市は、福岡市と北九州市のほぼ中間に位置し、豊かな自然環境に囲まれ、大陸との交流窓口として発展してきました。

また２０１７年、宗像市の「神宿る島」として沖ノ島を初めとした関連遺産群が世界遺産に認定され、貴重な歴史遺産に接することができます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本コースでは、留学生対象の授業を履修するとともに、指導教員のもとで専門分野の学修を行うことで、日本語と日本文化に関する総合的な研修を受けることができます。

日本語教育レベルは、JEES（日本国際教育支援協会）の日本語能力試験「N2レベル」程度である。読む、書く、漢字、コミュニケーション、聴解、総合表現等のクラスが開設されている。

③ 受入定員

10名（大使館推薦5名、大学推薦5名）

④ 受講希望者の資格、条件等

・ＪＬＰＴ：Ｎ２保持が望ましい
・日本と母国の架け橋人材に相応しい人物
・日本教育に関心がある人が望ましい

⑤ 達成目標

留学期間を通して、日本の文化や教育制度に対する理解を深め、研究結果の発表をします。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2025年10月上旬　～ 2026年9月下旬
（在籍期間：2025年10月1日～2026年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2025年10月　～　2026年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

10月上旬：渡日

10月：　留学生開講式、オリエンテーション
　　後期授業開始
11月：　日本理解特別プログラム
　　（体験型研修）

2月：　後期留学生研究発表会

4月：　留学生開講式、オリエンテーション
　　前期授業開始

6月：　日本理解特別プログラム
　　（体験型研修）

8月：　前期留学生研究発表会

9月：　コース修了認定

9月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

コース修了時に最終レポートを提出、研究発表を行います。このレポート及び履修科目、ホームルーム出席状況等について、指導教員・留学生担当教員による総合的評価をもとに、コース修了証の授与を受けることができます。（早期修了も可能）

〇必須要件

・ホームルームへの参加
・留学生対象授業・日本語科目への参加
・コース修了時の研究発表

〇単位取得（成績）証明書

履修する全科目（「日本語補講」を除く）について発行可能。「日本語補講」については単位認定は行いませんが、受講証明書発行は可能です。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

１）研修・コース科目の特徴

授業は、留学生向けのものだけでなく、空いている時間に日本の学生とともに正規の授業【学部開設科目）を受講することもできます。

また、本学は地元の宗像市との地域交流が盛んであり、例えば「そば打ち体験」「着付け体験」といった日本文化に触れることができる行事があります。地域の小中学生に自国の文化を紹介する講師として参加することもできます。

すべての日研生には、学生チューターが配置され、一緒に勉強したり、留学生活に関する相談をしたりすることができます。

２）研修・コース開設科目

Ⅰ）必須科目（各15コマ・30時間）・内容

〇「比較教育文化論Ａ」
文化、習慣の違いからくるトラブル事例を学ぶ
〇「日本語」
〇「日本語補講」
〇「留学生ホームルーム」
留学生、留学生担当教員で様々なテーマについて議論する
□「日本事情Ａ・Ｂ」
日本と母国の文化や社会について相互的に学ぶ
□「日本の教育制度Ａ・Ｂ」
現代日本の教育制度について基礎的概要を学ぶ
□「比較教育文化論Ｂ」
文化、習慣の違いからくるトラブル事例を学ぶ
【※最終レポートは研修期間に完成させる】

●最終レポート及び研究発表

留学生活で調べた研究テーマについてレポートを作成し、研究発表会で発表します

Ⅱ）選択科目（各15コマ、30時間）・内容

学部開設科目（授業担当教員に相談すること）

※上記は令和６年10月現在の予定科目であり、次年度科目名等が変更になる可能性があります。

３）研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

・グローバルラーニングセンター実施・運営による日本理解特別プログラム（体験型研修）

日本の文化や教育制度などについて、体験的に学ぶことを目的としています。例えば、日本や宗像地域の文化・歴史学習を行うため、博物館見学や体験活動に行くこともあります。

４）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・「日本事情Ａ・Ｂ」

日本の文化、社会についてのテーマを掘り下げていくために、日本の学生との話し合いによって日本についての認識を深め、それによって自分自身の持つ文化的特徴をも把握していくことを目標とします。

・「異文化交流の心理学」「多文化間心理学」

前期・後期ともに、日本学生との合同授業である。毎回、あるテーマ（食べ物、自分の将来など）やトラブルの事例をめぐって留学生と日本人学生とが小グループディスカッションを行い、出会い体験をします。

また、留学生自らも母国についてのレクチャーを行います。留学や移民などの異文化接触に伴う心理的過程や育児文化等についても学びます。

⑪指導体制

・指導教員：専門分野に関わる指導、研究発表および最終レポート作成の指導、学修や日本生活に関わる相談

・留学生担当教員：留学生対象必修科目・選択科目の授業担当、授業分野に関わる指導、「ホームルーム」の実施・運営、学修や日本生活に関わる相談

■宿　舎

・福岡教育大学学生寮
・大学近辺の民間アパート等に入居可能です。
※いずれも、渡日後に手続きを行います。

■修了生へのフォローアップ

・修了・帰国後、当該修了生から相談のある場合は、個別に対応しています。

■問合せ先

＜担当部署＞
福岡教育大学連携推進課
住所：〒811-4192　福岡県宗像市赤間文教町1-1
TEL：　+81-940-35-1556（直通）
FAX：　+81-940-35-1700
Email：ryugak01@fukuoka-edu.ac.jp
＜ウェブサイト＞
福岡教育大学：
https://www.fukuoka-edu.ac.jp

佐賀大学 （佐賀県）

アジアの中の日本、世界の中の日本、地域から見える日本を学ぶ

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

佐賀大学は、自然と共生するための人類の「知」の創造と継承に努めています。佐賀地域独自の研究を世界へ発信しています。そして、アジアの知的拠点を目指し、国際社会に貢献しています。

＜学　部＞
- 教育学部
- 芸術地域デザイン学部
- 経済学部
- 医学部
- 理工学部
- 農学部

学部生数　5,774名

＜大学院＞
- 学校教育学研究科
- 地域デザイン研究科
- 先進健康科学研究科
- 医学系研究科
- 理工学研究科
- 農学研究科

大学院生数　792名

② 国際交流の実績

世界各国・地域の113大学と交流協定を結んでいます。現在、本学には132名の留学生が在籍しています。2009年度から2024年度までに大使館推薦の日本語・日本文化研修生をベトナム2名、リトアニア、スウェーデン、アルメニア、ベルギー、インド、ブラジル、セルビア共和国、トルクメニスタン各1名、大学推薦の日本語・日本文化研修留学生カンボジア2名、ラオス1名、リトアニア2名、ベトナム3名、インドネシア2名を受け入れています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2024年：留学生数132人、日研生1人
2023年：留学生数119人、日研生1人
2022年：留学生数109人、日研生1人

④ 地域の特色

佐賀大学のある佐賀県は、九州の北西部に位置し自然が美しく、歴史が豊かなところです。メインキャンパスは佐賀市にあります。佐賀市は、物価が安く、住みやすい町です。気候は温暖で、年間の平均気温は17度です。春には、満開の桜、夏には、鮮やかな緑と花火を見ることができます。また、秋には、黄金色の水田と、カラフルなバルーンが青い空を舞う姿があります。冬には、ときどき、雪がふります。佐賀の人々は国際交流に大変熱心で、インターナショナルバルーンフェスタやいろいろな交流イベントに参加できます。また、佐賀は陶磁器でも非常に有名で、有田、唐津などの焼き物の産地があります。県内のあちこちに、アニメ「ゾンビランドサガ」や「ユーリ!!! on ICE」の舞台となった場所があります。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

佐賀大学は、学生と先生のコミュニケーションが活発な大学です。本コースは、佐賀の美しい自然や心温かい人々といっしょに、日本社会や文化への理解を深め、日本人学生と交流しながら日本語の能力を伸ばすことができるコースです。

＜日本語＞

本コースでは、研修生のレベルに合った日本語科目を履修できます。週に1コマの日本語の授業を受けることができます。

＜日本文化・日本事情・専門科目＞

留学生のための「日本事情」科目があります。また、「インターフェース異文化交流」科目では、日本人の学生といっしょに、議論をしたり、学外見学に行ったりします。これらの授業によって、研修生は、日本人学生と交流するという異文化交流を通じて、より深く日本を理解し、日本語の実践的な能力を身につけることができます。また、研修生の興味や専門に応じた科目を受講することができます。

＜修了研究＞

指導教員や国際交流推進センターの教員の指導のもと、自分の興味のあることについて調査をしてレポート作成を行うことができます。今までの日研生が書いたレポートは、国際交流推進センターのウェブサイトで見ることができます。

＜学生生活＞
佐賀大学では、様々なサークル活動があります。母校で参加している活動と同様のものがあれば、引き続きその活動に参加したり、新しく佐賀大学でサークル活動を始めることを勧めています。日本人学生との活動を通して、日本の文化や事情を知ったり、日常的な日本語を身につけることができます。本学には文科系とスポーツ系のサークルや部があります。文科系では管弦楽団、スポーツ系では合気道部など。ぜひ興味のある活動に参加してください。
サークル及び部の一覧はこちら
https://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kagai.html

大学主催の留学生と日本人学生のための催しや、学生主催のパーティーが多く行われています。佐賀大学の学生と交流する機会がたくさんあります。

③ 受入定員
6名（大使館推薦4名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等
・主専攻や副専攻で日本語・日本文化など日本に関することを学んでいる
・中級（日本語能力試験 JLPT N2合格）以上の日本語能力
・佐賀大学の学生や佐賀の人と積極的に交流できる

⑤ 達成目標
・日本文化や日本事情、日本語について幅広い知識を身につける。
・日本社会に親しむ。
・自国で専門研究するための基礎能力を養う。
・研修生の帰国後のキャリア選択に役立つ実践的な日本語運用能力を身につける。

⑥ 研修期間（在籍期間）
研修期間：2025年10月上旬 ～ 2026年8月下旬
（在籍期間：2025年10月1日 ～ 2026年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間
2025年10月 ～2026年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬	渡日
10月	開講式
	オリエンテーション
	新入留学生ウェルカムパーティー
11月	佐賀インターナショナルバルーンフェスタ
	唐津くんち
12月	冬休み
2月上旬	定期試験
2月中旬～	春休み
4月	春学期開始
5月	有田陶器市
	ガタリンピック
8月上旬	定期試験
8月	夏休み
	栄の国祭り
	修了式
	フェアウェルパーティー
8月下旬	帰国

⑨ コースの修了要件
日本語コースから秋学期・春学期合わせて2単位以上、インターフェース科目から2単位以上、その他、佐賀大学の授業の中から14単位以上が修了のために必要です。コースの修了者に対し修了証明書と成績証明書を発行します。修了レポートの作成は、修了要件に入りませんが、できるだけ作成することを勧めています。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1 ）研修・コース科目の特徴
研修生は自分の日本語レベルに合った日本語授業を履修するとともに、異文化交流をテーマにした科目や、基本教養に関わる科目、一部の専門科目を日本人といっしょに履修します。

2 ）研修・コース開設科目

科目名	単位数と時間数
日本語科目	2単位（30時間）以上
インターフェース科目	2単位（30時間）以上
その他佐賀大学が開講する科目	14単位（210時間）以上

表の中の3つの種類の科目から、それぞれ決まった科目数を履修しなければなりません。それぞれの種類の中でどの授業を取るかは、コーディネーターや指導教員と相談します。「その他佐賀大学が開講する科目」の中にも、「日本事情」科目など留学生対象の科目があります。
・履修科目を決めるときは、指導教員やコーディネーターと相談してください。
・今までの研修生は、日本語や日本文学、言語学、日本の建築、教育などに関する授業を受講しました。
・「日本語コース」のレベルは、プレースメントテストの結果で決まります。

3 ）研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及びその具体的な内容
　「インターフェース異文化交流」科目では、日本人学生との交流や地域への貢献を授業の中心的な活動に設定しています。短期留学生といっしょに受講する「日本事情研修」科目では、地域の歴史・文化・産業を知るために学外見学をしたり、文化体験を行ったりします（「日本事情研修」は英語で行われるので、受講を希望する場合は基礎的な英語力が必要です）。

4 ）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
　「インターフェース異文化交流」科目は、日本人と留学生がいっしょに学習する科目です。日本人と議論したり、課題を解決したりしながら、異文化への理解を深めます。また、佐賀大学では、アクティブラーニングを取り入れている科目がたくさんあるので、授業を通して日本人学生と交流する機会があります。

⑪ 指導体制

1 ）指導教員
　研修生の専門に応じて指導教員が選ばれ、学習について相談します。

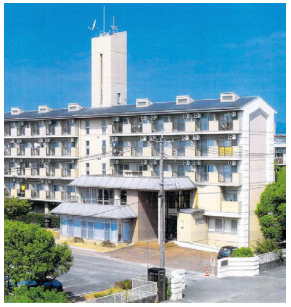
2 ）コースコーディネーター
　国際交流推進センター　准教授　古賀　弘毅

3 ）研修生の日本での生活に関しては、佐賀大学の保健管理センターと連携(れんけい)をとりながら、国際交流推進センターの教職員が対応しています。

4 ）研修生には、学生チューターが1名ずつつきます。学生チューターは、日常生活や勉強のお手伝い、日本人学生との交流のお手伝いをしてくれます。

■宿　舎

　これまでの研修生は、民間のアパートに住んでいます。台所、お風呂、トイレ、エアコンが付いていて、一か月の家賃は、約2万5千円～3万円です。佐賀大学が紹介しているアパートは、家具が付いているところが多いです。家具が付いている部屋を選んだ学生は、佐賀での生活を簡単に始めることができます。最初の月は、敷金と家賃を合わせて2か月分の家賃を払わなければなりません。最初に必要なお金はだいたい5～7万円です。
ちなみに、今までの研修生は冷蔵庫、洗濯機などが付いて約2万5千円のアパートに入居しました。ほとんどの留学生は佐賀大学のそばのアパートに住んでいて、大学まで自転車で5分ぐらいで来られます。



■修了生へのフォローアップ

　佐賀大学に留学した研修生は、佐賀大学で学んだことを生かして、日本や母国の日系企業で働いたり、日本の大学院に進学したりしています。日研生として佐賀大学に留学している間に、自分の専門に合う佐賀大学の先生に連絡をして、大学院への進学相談をしている学生もいます。
修了した研修生は、SNSやメール、国際交流推進センターのホームページを通じて、佐賀大学やコーディネーターといつでも連絡することができます。
佐賀大学の学部を卒業した留学生は、県内外の企業に就職したり、母国で就職したり、また、佐賀大学や他大学の大学院に進学しています。有名な企業で働いている卒業生もいます。

■問合せ先

＜担当部署＞
佐賀大学学務部教務課留学生交流室

住所：〒840-8502
　　佐賀県佐賀市本庄町1番地

TEL：　+81-952-28-8716（直通）
FAX：　+81-952-28-8819
Email：ryugaku@mail.admin.saga-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞
佐賀大学日研生ウェブサイト：
　https://www.irdc.saga-u.ac.jp/ja/foreignstudent/jresearch/
佐賀大学国際交流推進センター：
　https://www.irdc.saga-u.ac.jp/ja/
佐賀大学ホームページ：
　https://www.saga-u.ac.jp/

長崎大学 （長崎県）

学部(多文化社会・教育・経済学部のいずれか)に所属し,専門科目・教養教育科目も学べ, 研修目的(a)(b)のどちらにも対応できるようになっている

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

長崎大学は、10の学部（多文化社会学部、教育学部、経済学部、医学部、歯学部、薬学部、情報データ科学部、工学部、環境科学部、水産学部）、7つの研究科（多文化社会学研究科、教育学研究科、経済学研究科、医歯薬学総合研究科、総合生産科学研究科、熱帯医学・グローバルヘルス研究科、プラネタリーヘルス学環）を持つ総合大学であり、 2つの研究所（熱帯医学研究所、原爆後障害医療研究所）を有する国立大学法人である。
現在、教員が約1,265名、学生が約9,162名在籍しており、長崎に根付く伝統的な文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献することを理念としている。

文教キャンパス

② 国際交流の実績

長崎大学は、239校もの海外の大学と交流協定を締結しており、2024年5月1日現在593名の留学生が、各々の学部や研究科にて勉学と研究に励んでいる。また、留学生教育・支援センターに所属している協定校からの留学生（定員合計65名）は、2つのプログラムから選び、日本語・日本文化を学ぶ授業を中心に、
日々の勉学生活を楽しんでいる。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2024年：留学生数593人、日研生2人
2023年：留学生数578人、日研生2人
2022年：留学生数481人、日研生3人

④ 地域の特色

本学がある長崎市は、九州の西端に位置し、青く澄んだ海と緑豊かな山々に囲まれ、気候も温暖な都市である。
長崎港は、200年間に及ぶ日本の鎖国時代にあってもアジア・西欧との交易のために唯一開かれていた港であった。

写真：(一社)長崎県観光連盟　大浦天主堂の写真掲載は長崎大司教区の許可をいただいています

「長崎人」は国際交流の伝統を受け継いで開放的で人情味豊かであり、留学生にも非常に好意的である。
「長崎」は、西欧、中国、そして日本の文化が融合している歴史的な街であり、観光地やお祭り等の見どころが多数ある。
2つの世界遺産と19カ所の構成資産
世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」県内に大浦天主堂、外海の出津集落、五島市の奈留島の江上集落など11カ所、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」端島炭坑（通称軍艦島）、旧グラバー住宅など8カ所がある。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a)主に日本事情・日本文化に関する研修
日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のために研修を行うもの。

b)主に日本語能力の向上のための研修
日本語能力の向上のための研修を主とし、補助的に日本事情・日本文化に関する研修を行うもの。

② 研修・コースの特色

長崎大学では日研生の留学目的(a)(b)のどちらにも対応できるように配慮している。

日研生の学業目標の達成をより効率よく支援が行えるように、**本学の多文化社会学部、教育学部、経済学部の3つの学部から所属する学部を1つ選択してもらう。**
日研生が当該分野の指導教員の履修指導の下で受講希望に沿って科目を履修すると同時に、日研生の日本語能力に応じた**日本語**・**日本研究科目**も履修できる教育カリキュラム体制を用意している

③ 受入定員

8名（大使館推薦6名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語能力試験のN2以上に合格している者、もしくは、それと同等以上の日本語能力のある者（1年次在籍者を除く）

⑤ 達成目標

（1）日本語能力試験N1に合格、あるいは、
合格相当の日本語能力を修得する。
（2）講義や演習を通して日本文化の理解を深めるとともに、興味のあるテーマについての研究成果を得る。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2025年10月1日 ～ 2026年8月31日
在籍期間：2025年10月1日 ～ 2026年8月31日

⑦ 奨学金支給期間

2025年10月 ～ 2026年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日 国際学生交流会
10月：後期履修オリエンテーション
授業開始
11月：雲仙・島原バス旅行
平和学習バスハイク
防火訓練
長崎大学学園祭
2月：後期授業終了
4月：前期履修オリエンテーション
前期授業開始
8月：前期授業終了
8月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

日本語プレースメントテストの結果に応じて配置される留学生教育・支援センター提供の日本語科目、教養教育科目、所属学部の専門科目の中から、前・後期合わせて14コマ（1コマ90分）以上を履修し、合格した者には修了証書を発行する。また、修了の可否にかかわらず、全員に成績証明書を発行する。

⑩ 研修・コース科目の概要

（1） 研修・コース科目の特徴

本コースには必修科目、選択科目の区別がなく、日本語レベルに応じた日本語科目と学生の**関心のあるテーマに関係した専門科目を選択**できるようになっている。具体的には、**所属した学部の専門科目と教養教育科目**が履修可能である。また、留学生教育・支援センターの日本語科目は学生のレベルにあった科目を履修できる。日本語レベルが上級の場合は、日本語科目とともに「日本探究」も履修できる。

（2）研修・コース開設科目

Ⅰ）**必須科目 無し**

Ⅱ）選択科目

(A) **日本語**科目（中級～上級）－選択

中級Ⅱ会話	前期及び後期	90分授業15回
中級Ⅱ読解	前期及び後期	90分授業30回
中級Ⅱ作文	前期及び後期	90分授業15回
中級Ⅱ聴解	前期及び後期	90分授業15回
中級Ⅱ漢字	前期及び後期	90分授業15回
上級Ⅰ読解	前期及び後期	90分授業30回
上級Ⅰ総合	前期及び後期	90分授業30回
上級Ⅱ総合A	後期	90分授業30回
上級Ⅱ総合B	後期	90分授業30回
上級Ⅱ総合C	前期	90分授業30回
上級Ⅱ総合D	前期	90分授業30回
日本語上級Ⅱb	後期	90分授業30回
日本語上級Ⅱa	前期	90分授業30回
日本事情	後期	90分授業15回

日本語**上級レベル**学生対象科目－選択

日本探究：	文化について考える	後期
日本探究：	文学で学ぶ日本文化	後期
日本探究：	現代日本社会の諸相	前期
日本探究：メディアで学ぶ日本の文化		前期

（注）授業は、留学生とともに受講する。
留学生教育・支援センターのプレースメントテストを受け、その結果に基づいてセンターの担当教員と相談の上、 履修科目を決定する。

(B) **専門科目**－選択

各々の専門に応じて、選択・受講する。

◈**学部**の科目

	学部	科目名	
【選択】学部の科目	多文化社会学部	（例） 多文化社会学の諸問題Ⅰ（社会），言語学，日本語学， 近代文学，倫理学， 国際公共政策入門（政治），（法），（経済）， 文化研究基礎（メディア），日蘭比較文化，アジア共同体講座， キャリア形成論， 陶磁考古学， 民俗学，映画論など	所属学部の指導教員と相談の上、履修科目を決定
	経済学部	（例） 経済数学入門， 法学概論， 経済政策， 日本経済論， 統計学， 開発経済学， 留学生との共修ゼミ，応用数理Ⅰ， 数理計画法，Special seminar for foreign students Ⅰなど	
	教育学部	（例） 教育史，教育哲学，子ども臨床， 教育行政・制度論， 舞踊， 離島と教育，障害児保育， 教育行政・制度論など	

◈**教養教育**の科目

	科目名	
【選択】教養	（例） 日本事情，日本語と社会， 国際社会と日本経済， 自然災害とインフラ長寿命化， 生物から見た水産業， プラネタリーヘルス入門， Nagasaki Studies，被ばくと社会 など	所属学部の指導教員と相談の上、履修科目を決定

（注）上記科目は学部学生（日本人学生及び留学生）とともに受講する。
＊ 2023年度の開講科目 https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/campuslife/course/general/syllabus/r04syllabus/index.html

（3）授業以外の研修科目・地域見学と交流

大学内の受講する講義や演習の他に、地域での見物・見学や地域交流等のイベントを開き、学生の日本語や日本文化、地域文化等に触れる機会が増えるように努めている。

・平和学習バスハイク

長崎県下の新規渡日留学生を参加対象とした終日のイベント。被爆者による講和を聞く機会を設け平和公園、原爆資料館、長崎歴史文化博物館を回るなど、平和について学習する。

平和公園の平和記念像

長崎原爆資料館

・雲仙・島原バス旅行

長崎の雲仙、小浜、島原の特色ある自然や歴史遺産等の見学を行う。

雲仙地獄

雲仙普賢岳

島原城

武家屋敷

（4）　日本人学生との共修科目及び具体的な内容

研修目的が(a)であっても(b)であっても、**学部所属になるため**、**専門科目**については日本人学生との共修となる。**指導教員のセミナー**にも参加することになる。また、**教養教育自由選択科目**も日本人学生との共修となる。

前ページ(B) 専門科目ー選択

⑪ 指導体制

研修生は、自分の関心のある分野に合わせて学部を選択し、所属することになる。その学部からは、指導教員が1名定められ、その指導教員は各人の専門分野について、適宜、個別指導を行う。また、留学生教育・支援センターにおいても日研生の担当する教員が決まっており、日本語プレースメントテストの結果に基づき履修可能な科目を選定し、履修ガイダンスを行い、日本語の学習に関する指導を行う。

■宿　舎

長崎大学には、国際交流会館（西町本館・A棟・B棟）坂本分館、国際学寮ホルテンシア（A棟・B棟）の留学生用宿舎が設置されている。但し、数に限りがあるため、希望者全員が入居できないこともある。その場合は、民間アパートを借りる。（平均家賃月3万～4万円）留学生向けの居室数等は下記のとおりである。（2024年10月現在　今後変更になる可能性がある。　）

部屋タイプ	数	宿舎費　（1人あたり/半期）
単身室	64室	￥123,000 -￥198,000
2人シェア	12室	￥138,000
4人シェア	117室	￥180,000

○ 宿舎設備・備品

エアコン・ベッド・机・椅子・洋服ダンス・電気スタンド・冷蔵庫・シャワー・トイレ・洗濯室（共用/専有）・補食室（共用/専有）

○ 宿舎周辺の生活情報、通学時間

国際交流会館および国際学寮ホルテンシアは、文教キャンパス（メインキャンパス）から徒歩で15分程度の距離に位置している。閑静な住宅街に立地し、付近には公務員宿舎も併設されている。

国際交流会館坂本分館は本学附属病院の敷地内に設置されており、医学部及び歯学部へは徒歩で数分の距離にある。付近には商店街があり、生活必需品等がいつでも購入できる。文教キャンパスまでは、路面電車を利用して20分程度である。

ホルテンシア

国際交流会館(西町)

■修了生へのフォローアップ

学術研究等の相談があった時は、メールやSNS等でいつでも応じる体制を取っている。

長崎大学グローバルアルムナイネットワーク（Nagasaki University Global Alumni Network）支部が世界中の各地域で活動しており、修了生のネットワーク形成に活用できる。修了生は、再度長崎大学に留学、日本で就職、日系企業に就職、日本と関わりのある研究職につく等活躍している。

■問合せ先

＜担当部署＞長崎大学学生支援部留学支援課

住所：　〒852-8521　長崎県長崎市文教町1-14
TEL：　+81-95-819-2209（直通）
FAX：　+81-95-819-2125
Email：　ryugaku_shien@ml.nagasaki-u.ac.jp
＜ウェブサイト＞
長崎大学留学生教育・支援センター：
https://www.liaison.nagasaki-u.ac.jp/
長崎大学：http://www.nagasaki-u.ac.jp

熊本大学（熊本県）

緑豊かな歴史あるキャンパスで、日本人学生と共に学ぼう！

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

熊本大学は、旧制第五高等学校（「五高」）を母体とする伝統のある国立の総合大学であり、現在、8学部・8大学院1研究科に、約10,000人の学生及び約2,700人の教職員がいます。

また、文部科学省から、スーパーグローバル大学創成支援事業の対象校に選ばれた2014年以降、現在までにたくさんの卒業生が世界および各界で活躍しています。

熊本大学黒髪北キャンパス内には、国の重要文化財である五高記念館があります。100年前には小説家・英文学者で有名な夏目漱石や、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）が教鞭をとったこともありました。

本学は、地方中核都市に位置する国立大学として、地域との連携等を強め、また、知的国際交流を積極的に推進するとともに留学生教育に努め、国際交流の担い手の育成を目指しています。

五高記念館（正面）

② 国際交流の実績

2024年10月1日現在

・大学間交流協定校：133機関42か国/地域
・部局間交流協定校：141機関41か国/地域

合計：278機関55か国/地域

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2024年：留学生数532人、日研生6人
2023年：留学生数475人、日研生3人
2022年：留学生数413人、日研生1人

④ 地域の特色

熊本市は九州の中央に位置する人口約73万人の緑豊かな地方都市です。市の中心部には熊本地震にも耐え抜いた熊本城があり、路面電車が走り、行政機関、商業施設、レジャー施設等の設備が揃っている便利なコンパクト都市でもあるため、学生にとっては生活しやすい環境です。

また、九州各方面への鉄道の拠点となる熊本駅があり、東京へは飛行機で1時間半、大阪や京都へは新幹線で3時間のため、日帰りによる移動も可能です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

以下の、（a）(b)両方を対象とします。

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

【日本事情・日本文化研究コース】
日本事情・日本文化に関わる研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行うもの

【日本語能力向上コース】
日本語能力のための研修を主とし、補助的に日本事情・日本文化に関する研修を行うもの

所属学部の指導教員による指導のほか、「研究科目」（次ページ⑩参照）については、学部の日本人学生と共学できます。

③ 受入定員

10名（大使館推薦9名、大学推薦1名）

黒髪キャンパス

④ 受講希望者の資格、条件等
(1)日本語・日本文化に関する分野を主専攻とする者
(2)日本語能力試験（JLPT)N2合格相当のレベル以上が必要です。

⑤ 達成目標
【日本事情・日本文化研究コース】
日本語能力を高めるとともに、日本を対象とした研究を行う上で必要となる知識、技能を身につけます。
【日本語能力向上コース】
日本語能力を高め、社会で役立つ日本語・日本文化の知識を身につけます。

⑥ 研修期間（在籍期間）
研修期間：2025年9月中旬　～ 2026年8月31日
（在籍期間：2025年10月1日～2026年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間
2025年10月　～　2026年8月

⑧ 研修・年間スケジュール
（2025年度予定）

9月中旬～下旬	渡日（2024年は9月20日） 履修ガイダンス等、開講式
10月	新入学オリエンテーション
12月～1月	冬季休暇
1月～2月	定期試験
2月中旬～3月	春季休暇
4月	新学期開始
7月～8月	定期試験、修了レポート等提出 帰国オリエンテーション
8月中旬	閉講式（2024年は8月8日）
8月下旬	帰国

⑨ コースの修了要件

【日本事情・日本文化研究コース】
1年間に24単位以上を取得し、口頭試問の合格及び修了レポートを提出します。

日本語科目※	6単位
研究科目を各科目分野から合わせて	8単位
自由選択科目	10単位以上
合計単位	24単位以上

【日本語能力向上コース】
1年間に24単位以上を取得し、指導教員が認めた日本語による学習成果物を提出します。

日本語科目※	12単位
研究科目を各科目分野から合わせて	4単位
自由選択科目	8単位以上
合計単位	24単位以上

※日本語科目は1学期毎に7単位までの履修制限があります。

上記2コースとも各修了要件を満たした場合のみ、修了証書を発行します。修了証書（1部）と成績証明書（英文2部）はプログラム修了時期（10月中旬）に各学生の原籍大学へ送付します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

１）研修・コース科目の特徴
日研生には、日本人学生と共学の「研究科目」が準備されています。

２）研修・コース開設科目
Ⅰ）必須科目
【日本事情・日本文化研究コース】
日本語・・・・・・・・・6単位
研究科目各分野合計・・・8単位
【日本語能力向上コース】
日本語・・・・・・・・・・12単位
研究科目各分野合計・・・・ 4単位
※両コースとも、科目は学内のシステムを利用したガイダンス等や指導教員のアドバイスを受け、履修します。

Ⅱ）選択科目
【日本事情・日本文化研究コース】
日本語科目と研究科目各分野から・・10単位以上
【日本語能力向上コース】
日本語科目と研究科目各分野から・・8単位以上

日本語科目　2024年度例
　上級前半読解AⅠ：学術論文を読むために必要な基本的知識・技術を文章の構成、内容を理解して学びます。また、実際に書かれた論文を元に、実践的な読解練習を行います。
「研究科目」　2024年度例
ⅰ.日本語研究科目
　日本語学特殊講義Ⅲ：現代日本語の研究方法を習得します。研究文献の探し方、文献の読み方、論文の書き方などを扱います。
ⅱ.日本社会研究科目
　教職入門：教師とは・子どもと発達・教師をとりまくものについて学びます。
ⅲ.日本文学研究科目
　日本語日本文学入門：日本語と日本文学を研究することの意義と方法について概説します。熊本方言、オノマトペ、近現代文学、古典文学などを扱います。
ⅳ.日本文化研究科目
　日本史概説Ⅰ：日本の古代から戦国期までの主要事項を取り上げ、その歴史的意義、及び日本の古代・中世史の基礎を学びます。近年における中世史の研究状況も紹介します。

３）研修科目で、地域の見学や地域交流等の参加出来る科目、及びその具体的な内容
　人文地理学特論Ⅰ・Ⅱ：城下町である古町・新町における熊本地震被災後7年間の変化を野外調査します。
　また、留学生は学内で案内・開催されるイベントに参加し、学外の留学生や地域の人々と交流することができます。

４）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
　研究科目は全て、文学部・教育学部・法学部及び教養教育で開講されている科目です。それらの授業では、日本人学生と共に教養教育科目及び専門科目を学ぶことができます。

龍南健児像

⑪ 指導体制

指導教員・・・各学生に1名※
　新入留学生は、学部等に所属し、指導教員は学生の専門に合わせてレポートの個別指導を行います。この指導教員は渡日前に決定します。

学生チューター・・・各学生に1名※
　チューター（本学の日本人学生）を渡日から6か月間つけることができます。チューターの担当は渡日前に決定します。

※国際教育課が本プログラムの履修や日本語クラスについて、全体的にサポートします。

■宿　舎

黒髪北キャンパスから東に1.5kmほどのところに、留学生のための寮「熊本大学国際交流会館」があります。200人以上の留学生や研究者が住むことが可能です。寮から大学までは自転車で10分くらいです。

＜部屋タイプ＞　単身室
＜設備＞ キッチン・シャワー・トイレ・
　　クローゼット・エアコン・ベッド・
　　冷蔵庫・IHクッキングヒーター・机・
　　いす・電話機（受信専用）等
＜寄宿料＞ 月額 17,000円
　　（水道・光熱費を含まない）
　　＊料金は、変更になる場合があります。
　　＊その他、入居時に預託金、
　　退去時に清掃費・ 鍵交換費が
　　必要です。
ふとんリース：約10,000円／年
インターネット：別契約　28,000円／年　程度

国際交流会館

■修了生へのフォローアップ

＜修了後の進路例＞
・大学院（母国・日本）進学
・日本企業勤務・日本語翻訳者

黒髪南地区

■問合せ先

＜担当部署＞
熊本大学国際部国際教育課
住所：〒860-8555
　　熊本県熊本市中央区黒髪2-40-1

TEL：+81-96-342-2103（直通）
FAX：+81-96-342-2130
Email：gji-ryugakux@jimu.kumamoto-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞
熊本大学多言語文化総合教育センター：
　http://www.c3.kumamoto-u.ac.jp/
熊本大学：
　http://www.kumamoto-u.ac.jp
熊本大学　日本語・日本文化研修プログラム：
http://www.kumamoto-u.ac.jp/kokusaikouryuu/gaikokujinryuugakusei/kyouikuprogram/japanese_studies_program

大分大学（大分県）

緑豊かなキャンパス。温かい指導。大分で日本語・日本文化を研究しよう

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

教育学部、経済学部、医学部、理工学部、福祉健康科学部、5大学院（教育学、経済学、医学系、工学、福祉健康科学）からなり、2024年5月現在、約5,500人が学ぶ国立の総合大学です。

緑豊かなキャンパスで「創造性や人間性に富む人材の育成」、「国際社会の平和と発展への貢献」、「人類の福祉と文化の創造」を理念とした教育が実践されており、少人数制の教育の下、教員やスタッフと親密な関係が築け、日本人学生との交流も活発に行うことができます。

② 国際交流の実績

本学は、2024年5月現在26の国と地域の80大学と学生交流協定を結んでおり、110人の留学生が学んでいます。

本学の日研生プログラムは2004年に始まり、毎年日研生を受け入れています。

このプログラム以外にも、協定校間で短期留学生を対象とした交換プログラムがあり、ヨーロッパ、中国、韓国、ベトナムなどから、毎学期約50人の交換留学生が学んでいます。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2024年：留学生数110人，日研生1人
2023年：留学生数123人，日研生2人
2022年：留学生数 87人，日研生2人

④ 地域の特色

知っていましたか？大分県の人口10万人当たりに占める留学生の数は2023年度は**日本で3番目、大分県は多くの留学生を受け入れています。**

大分県は九州東部に位置し、県庁所在地の大分市は人口約48万人の地方都市です。東京や大阪などの**大都市に比べて物価が安く**、人々も親切で、留学生には生活しやすいところです。

別府や湯布院などの全国的に有名な温泉地には世界各国から多くの観光客が訪れています。

豊かな自然に恵まれた大分県は、1年を通じて温暖で過ごしやすく、**四季折々の自然の美しさを堪能**することができます。

歴史的に見てもたくさんの魅力があります。戦国大名の大友宗麟が治めていた時代の**大分市は日本を代表する国際都市**でした。時代を遡れば11世紀から12世紀にかけて彫られた臼杵石仏、8世紀に建立された宇佐神宮（いずれも国宝）など、多くの訪れるべき名所旧跡があります。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

（b）主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

日研生は、日本語・日本文化に関わるテーマを一つ選んで、調査・研究の方法、日本語での論文の書き方を学び、じっくり時間をかけて論文を完成させます。日研生の指導を長年行っている**経験豊富な指導教員が論文指導を行うので、安心して論文作成に打ち込めます**。

また、論文作成と並行して、中級から上級までの日本語科目並びに日本事情科目の中から自らのレベル・目的に合った科目を選択することで、**日本語の更なる向上**も目指します。

③ 受入定員

5名（大使館推薦 2名，大学推薦 3名）

④ 受講希望者の資格、条件等

1）日本語検定試験N2またはそれ以上を取得している者が望ましい。
2）外国（日本以外）の大学で、日本語・日本文化に関する分野を専攻としている者。日本語・日本文化に関する分野を専攻していない場合は、日本語・日本文化に強い関心を持つ者。
3）来日時点で日本語を300時間程度学習していること。
4）日本語が母語でないこと。
5）日本語で日常会話ができること。
6）自分の得意な研究分野の日本語論文を、辞書を使って読む能力を有していること。
7）400字の長さの日本語エッセイを辞書を使って30分程度で書ける能力を有していること。
8）日本語・日本文化をテーマに調査・研究を自主的に行う意欲があること。

⑤ 達成目標

1）学術的な目標
・論文の書き方を習得し、自ら専門の分野の論文を実際に執筆し、完成させる。
・学術論文の書き方（以下参照）について学ぶ。
✓序論・本論・結論の論理的繋がりの理解
✓理論構築とデータ収集のバランスのとり方
✓参考文献の提示の仕方
✓テクスト内引用の方法

2）日本語運用上の目標
・対人関係やその場に配慮した大人の日本語が理解でき、話せるようになる。
・大学の教養教育課程レベルで要求される日本語能力（レポート作成および発表）を身につける。具体的には、授業内容を理解しレポートを書くことができ、授業内で発表ができるようになる。
・地域との交流に必要な日本語が理解でき、話せるようになる。

⑥ 研修期間（在籍期間）
2025年9月下旬　～　2026年8月下旬
（2025年9月27日　～　2026年8月31日[予定]）

⑦ 奨学金支給期間
2025年10月　～　2026年8月

⑧ 年間行事・年間スケジュール
9月下旬　渡日
　開講式、オリエンテーション、
　プレイスメントテスト、健康診断
10月 後期授業開始、
　新留学生歓迎会、チューターとの研修旅行
11月 学園祭
　消防避難訓練
12月 国際文化祭
12月下旬～1月上旬　冬休み
2月　後期末試験
2月～3月 春休み
4月 前期授業開始
　健康診断
5月 消防避難訓練
7月 七夕祭（大分大学）
　留学生送別会
8月 修了式
8月下旬 帰国

⑨ コースの修了要件
・通年で14科目以上を受講し、28単位以上修得すること。
・「日本研究I」(後期)と「日本研究II」(前期)は必ず受講し、単位を修得すること。

※コース修了者には、修了証書および成績証明書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1）研修・コース科目の特徴
　本学は、大分の魅力を発見することができるさまざまな科目を用意しています。2)に説明する必須・選択科目の中から、1週間に7科目以上を受講する必要があります。それぞれの科目は、1週間に1コマ（90分）の開講で、日研生はコース修了時までに**少なくとも315時間の日本語・日本文化の研修**を受けることになります。

2）研修・コース開設科目
Ⅰ）必須科目
・日本研究Ⅰ、II(修了研究、通年45時間)：「日本研究I」(後期)と「日本研究II」(前期)は修了研究として、各学期に必ず受講する必要があります。指導教員の指導の下、日本語・日本文化に関するテーマを一つ選び、調査・研究を行い、その成果を論文として「日本研究II」で提出し、国際教育推進センター紀要で発表します。

・日本語科目（表1）：日本語科目は、入学前に実施されるプレースメントテストの結果により受講レベルが判定されます。日本語科目は中級と上級の各レベルに読解や作文など目的別の科目があり毎学期最低3科目（通年135時間）受講しなければなりません。

Ⅱ）選択科目
・グローバル科目：表2をご覧ください。
・教養・専門科目：各学部の日本人学生のための科目です。

3）地域の見学や地域交流等、参加できる科目及びその具体的な内容
・表2をご覧ください。

4）日本人学生との共修等の機会
　グローバル科目（表2）は国際人養成のための科目で、日本人学生と一緒に学びます。「Manga Studies」「日本の歴史・文化・社会入門」「大分地域理解」「日本語学I」などがあります。

表1　中級から上級までの日本語科目（一部抜粋）

科目名	JLPTレベル
日本語4文法Ⅰ	N2
日本語4文法Ⅱ	N2
日本語4スピーキング	N2
日本語4読解Ⅰ	N2
日本語4読解Ⅱ	N2
日本語4作文Ⅰ	N2
日本語4作文Ⅱ	N2
日本語4応用Ⅰ	N2
日本語4応用 Ⅱ	N2
多読で学ぶ日本語	N3以上
日本語5文法Ⅰ	N1
日本語5文法Ⅱ	N1
日本語5スピーキング	N1
日本語5読解・作文Ⅰ	N1
日本語5読解・作文Ⅱ	N1
レポート・論文作成	N1
ビジネスジャパニーズ演習１，２	N1
日本研究Ⅰ	
日本研究Ⅱ	

表2　日本人学生と共修のグローバル科目
（一部抜粋）

科目名	内　容	JLPT レベル
ソーシャルネットワークと大分からの発信Ⅱ	大分地域の環境保護、阿蘇の状況を知る	中級以上 (日英語で授業)
大分地域理解	複数の文化や言語の視点から大分の社会や歴史を学ぶ	中級以上
歩いて楽しい街：大分と別府	大分市・別府市の街並みを観察し、町おこしを考える	中級以上 (日英語で授業)
日本語表現技術	フォーマルなスピーチと論理的なディスカッションの方法を学ぶ	中級以上
日本語学Ⅰ	日本語の音声、語彙、方言、文法などを学ぶ	N1
ビジネスジャパニーズ演習3，4	就職対策及びビジネスに関する情報収集法などを学ぶ	N1
Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies	若い女子のファッションの変容を経済と大衆文化の歴史から概観する	中級以上 (日英語で授業)
Manga Studies	日本のマンガの様々なジャンルを検証し、社会文化に与える影響について議論する	英語

注：下線の科目は見学・地域交流を行う参加型の科目

⑪ 指導体制

プログラムの責任教員は、国際教育推進センターの坂井美恵子（さかい みえこ）教授です。

個別研究指導は国際教育推進センター教員が行い、並行して指導教員から指導を受けたチューター（本学正規生）による日本語学習支援も受けることができます。

個別指導の専門分野は「日本語教育」、「日本語教授法」、「外国語教育論」、「応用言語学（CALL・動機・第2言語習得研究）」、「大分学（歴史・言語）」、「ジェンダー・スタディーズ」、「中間言語語用論」、「日本文学（主に近代・現代）」、「大衆文化研究」、「比較文化・文学理論研究」などです。

■宿　舎

日本人学生が多く生活している学生寮に入居します。そのため日本語漬けの生活を送ることができます。詳細は以下の表3をご覧ください。

表3　学生寮の部屋代・設備など

部屋代（月額）	27,000円 または 22,000円 （全室一人部屋）
設　備	机、椅子、ベッド（寝具なし）、 クローゼット、ユニットバストイレ、 ミニキッチン（冷蔵庫、ＩＨクッキングヒータ）、エアコン
部屋代以外の費用	維持管理一時金 26,400円（入居時） 水道料 2,000円/月 電気は個別契約 インターネット料 2,037円/月（全員加入）

■修了生へのフォローアップ

日研生プログラム修了生は、プログ、Facebook、Skype等のソーシャルメディア・プラットフォーム及び電子メールなどを通じて、修了後の更なる学術的指導及び進路相談を受けることができます。また、Facebookを通して他の修了生との情報交換も行うことができるとともに、大分大学及び大分地域の最新情報を入手することができます。

授業（グローバル科目）：大分地域体験での茶摘み体験

■問合せ先

＜担当部署＞
大分大学 学生支援部 学生・留学生支援課

住所：　〒870-1192
　　大分県大分市旦野原700番地

TEL：　+81-97-554-7444（直通）
FAX：　+81-97-554-7437
Email：ryugaku@oita-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞
大分大学国際教育推進センター
　https://www.gaia.oita-u.ac.jp/
大分大学
　https://www.oita-u.ac.jp/
日研生について
　https://www.gaia.oita-u.ac.jp/academic/kokuhi/

宮崎大学 （宮崎県）

宮崎大学
University of Miyazaki

日本の「ひなた」で、一緒に「日本」を学びましょう！

日本の
ひなた
宮崎県

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

宮崎大学は、教育学部、医学部、工学部、農学部、地域資源創成学部の5つの学部と教育学研究科、看護学研究科、工学研究科、農学研究科、地域資源創成学研究科、医学獣医学総合研究科、農学工学総合研究科の7つの大学院研究科で構成されている国立大学法人です。

本学の概要は次のとおりです。

（１）学部／課程、学科、プログラム、コース

- 教育学部／学校教育課程（小中一貫教育コース・教職実践基礎コース・発達支援教育コース）
- 医学部／医学科、看護学科
- 工学部／工学科（応用物質化学プログラム・土木環境工学プログラム・応用物理工学プログラム・電気電子工学プログラム・機械知能工学プログラム・情報通信工学プログラム）
- 農学部／農学科（動植物資源生命科学コース・森林環境持続性科学コース・海洋生命科学コース・応用生命化学コース）、獣医学科
- 地域資源創成学部／地域資源創成学科（企業マネジメントコース・地域創造コース・地域産業創出コース）

（２）学内共同教育研究施設（学生利用施設）

附属図書館、国際連携センター（留学交流係：GSO） 、安全衛生保健センター、障がい学生支援室、イスラーム文化研究交流棟（礼拝場所）

② 国際交流の実績

31カ国・地域144機関と協定を締結し、5つの海外拠点オフィスを設置して、学生交流や研究・教育に関する協力や交流を積極的に推進しています。

海外拠点オフィス： マランオフィス（インドネシア）、ジョグジャカルタオフィス（インドネシア）、ヤンゴンオフィス（ミャンマー）、ハノイオフィス（ベトナム）、バングラデシュオフィス（バングラデシュ）

これまで、JSTのさくらサイエンスプログラムにより学生・研究者の受入れを行うとともに、2023年度からは、大学の世界展開力強化事業により日本人学生の派遣、外国人留学生の受入を強化し、GXに向けた地域課題を解決できる人材を、国際的に連携しながら育成しております。

③過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2024年：留学生数132人、日研生1人
2023年：留学生数145人、日研生2人
2022年：留学生数159人、日研生1人

④ 地域の特色

自然： 新鮮な空気、紺碧の海、まぶしい陽光

宮崎は九州南部に位置し、日本で最も暖かい場所の一つです。宮崎市の人口は約40万人と小さいですが、自然が豊かで、スポーツが盛んです。夏にはサーフィン、1～2月には野球やサッカーなどのスポーツキャンプでにぎわいます。

歴史： 神話の舞台

雄大な自然に囲まれた宮崎は、日本神話の舞台となっています。

人・生活： のんびり、おおらか

おおらかでのんびりとした気質です。また、日本で最も物価が安い地域でもあります。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

（ａ）主に日本事情・日本文化に関する研修

日本語を用いて地域や社会の活動に参加することを通して、体験を伴う、日本事情・日本文化の学習を目的としています。

（ｂ）主に日本語能力の向上のための研修

日本語能力の向上、および日本の文化や自然への理解を深めることを目的としています。

② 研修・コースの特色

【教育方針】

日本語科目で日本語能力を指導するとともに、日本事情科目や日本人学生向け講義への参加、地域での活動・巡検等の体験を通じて、日本や宮崎の文化を広く学び、理解を深めることを目的としています。

また、留学後の研修生の進学・就業など生涯設計も見据えながら、1年間の留学の成果を「目に見える形」とするために、研修修了までに修了論文（研究成果をまとめたレポート・（小）論文形式の文章）を作成することを目指しています。

【特徴】

研修生には指導教員による学習の指導・支援が行われます。指導教員とは別に、日本籍学生によるチューター制度も完備されています。

他の交換留学生とともに日本語・日本事情を学び、日本人学生が学ぶ一般科目も受講することができます。

- ◆ 全レベル年中開講：　前期、後期でそれぞれ、同じ科目を開講していますので、前期、後期のいずれの学期から留学しても、希望するレベルの科目を受講できるカリキュラムになっています。
- ◆ 再学習可能：　半期（前期/後期）の学習では修得が不十分と感じた場合、単位取得後でも、同じレベルのクラスを、単位取得対象として再受講できます。

【研修内容】

日本語科目

入門から超上級まで7段階に細かく分けられた科目構成による、適切なレベルでの学習を提供します。特に、高度な論文執筆やビジネス日本語の支援、教員の指導が充実しています。

日本事情に関する科目

特色ある以下の科目を提供しています。

･日本事情概論：　全学の教員が様々な分野に関する、今の日本や宮崎の話題について紹介。

･日本語地域インターンシップ：　実体験、経験を通じて、日本の社会や文化への理解を深めてもらうために、留学生の地域での活動を支援する科目。

③ 受入定員

2名（大使館推薦1名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

･日本語能力検定試験：　N2合格以上

･日本と母国の架け橋人材として相応しい人物

⑤ 達成目標

･留学前より上のレベルの科目の履修。

･修了論文を作成する。

⑥ 研修期間（在籍期間）

渡日時期：　2025年9月下旬または10月上旬
帰国時期：　2026年9月下旬
在籍期間：　2025年10月1日～2026年9月30日
（修了式：　9月（2024年は9月13日））
（退寮日：　9月下旬）

⑦ 奨学金支給期間

2025年10月　～　2026年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬	渡日
10月	オリエンテーション（後期）
11月	大学祭
	留学生のためのビジネス講座
12月	防災セミナー（後期）
	冬期休暇
2-3月	春期休暇
4月	オリエンテーション（前期）
5月	留学生交流イベント
6月	防災セミナー（前期）
7月	えれこっちゃみやざき市民総踊り
8-9月	夏期休暇
9月	修了証書授与、帰国

⑨ コースの修了要件

Ⅰ）必修科目である超上級日本語を前期（A）・後期（B)とも必ず履修し、修了論文の執筆に取り組み、単位を取得すること。 また、選択必修科目の中から2科目以上の単位を取得すること。

Ⅱ）選択科目、３）見学、地域交流等の参加型科目、４）日本人学生との共修等の機会の中から4科目以上の単位を取得すること。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

１）研修・コース科目の特徴

各国の留学生や日本人学生と広く交流しながら、日本語、日本事情を学ぶことができます。授業や学内・学外の様々な交流活動から興味・関心のあるテーマを発見し発展させていきます。日本語科目で学術論文の講読に必要なリテラシーを養い、文章作成の技術を学びながら修了論文の執筆を目指します。研修生本人の希望及び指導教員からの指導を十分に考慮しながら、修了論文のテーマに関連する科目と論文執筆に関連する科目を積極的に履修してください。

２）研修・コース開設科目

Ⅰ）必修科目

＜必修科目＞

1年を通して前期・後期の両方履修すること。

・超上級日本語A（研究論文の講読と執筆・前期）

・超上級日本語B（研究論文の講読と執筆・後期）

＜選択必修科目＞

年2回（前期/後期）開講の科目なので、学習計画に合わせて、前期か後期のいずれかに必ず履修すること。

・上級日本語（アカデミック・ライティング、総合日本語等）

・技能別日本語（漢字等）

※科目名や内容は一部変更となる場合がありますので、ご了承ください。

Ⅱ）選択科目

以下の科目は、選択科目の一例です。

·日本事情概論

※p2【研修内容】を参照

３）見学、地域交流等の参加型科目

·日本語地域インターンシップ

※p2【研修内容】を参照

４）日本人学生との共修等の機会

＜教養教育科目＞

日本人学生向け教養科目。豊富な科目数の中から選択し、担当教員の了解を得て、日本人学生とともに履修することができる。

・言語文化概論

・言語学入門

など

⑪ **指導体制**

多言語多文化教育研究センター

小柴　裕子　（日本語教育部門）

その他関連教員

国際連携センター

伊藤　健一　（日本語教育部門兼務）

教育学部

国際交流委員長

その他関連教員

■宿　舎

【学生寮（一般日本人学生用）】

定員：男子寮 100室、女子寮 100室

＜国際交流宿舎＞ ※

単身室：　165室　月額4,700円

夫婦・家族室：　4室

夫婦室:月額9,500円 家族室:14,200円

＜木花ドミトリー＞

単身室：　31室　月額24,000円

（光熱水費・Wi-fi込）

＜清武ドミトリー＞

単身室：　50室　月額25,800円

（光熱水費・Wi-fi込）

【宿舎設備・備品】

各部屋：　ベッド、机、椅子、クローゼット

共同：　調理場、洗濯室、風呂、トイレ

宿舎費前納：　必要なし。

※　滞在期間1年の短期留学となる日研生は、基本的に国際交流宿舎（単身室）となります。

■修了生へのフォローアップ

·日本語・英語による大学からのSNS等による情報発信

·海外同窓会（インドネシア・台湾・ベトナム・ミャンマー）

·JETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業（The Japan Exchange and Teaching Program））による再来日の支援

·修了、帰国後の地域企業等へのインターンシップ、就業による再来日希望者への支援

■問合せ先

＜担当部署＞
宮崎大学国際連携機構国際連携課留学交流係
（GSO: Global Support Office）

住所：　〒889-2192
宮崎県宮崎市学園木花台西1-1

TEL：　+81-985-58-7134（直通）
FAX：　+81-985-58-7782
Email：　ryugaku-s@of.miyazaki-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞
宮崎大学国際連携センター：
https://www.miyazaki-u.ac.jp/kokusai/
宮崎大学：
https://www.miyazaki-u.ac.jp/

鹿児島大学（鹿児島県）

九州の南端で<日本>を学ぶ･<日本>を研究する基礎作りをしませんか！

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1）特色と歴史

鹿児島大学は九州最南端に位置し、9学部、9研究科を有する国立の総合大学です。鹿児島大学が新制国立大学として発足したのは1949年です。はじめは文理、教育、農、水産の4学部からスタートしましたが、その後、医学部、工学部、歯学部、共同獣医学部、各種大学院等を整備して今日 に至っています。

文系学部は法文学部と教育学部があり、さまざまな分野の教員が在籍しています。教員の専門分野については、本学のHPを参考にしてください。

2）教員・学生数等

学部生（留学生）	8,598名 （161名）
大学院生（留学生）	1,574名 （207名）
教員	1,193名
職員	2,753名

② 国際交流の実績

現在、学部生8598名のうち留学生161名、大学院生1574名のうち留学生207名が在籍しています。鹿児島大学は32の国や地域の86機関と大学間国際学術交流協定と結び、2024年には82名の交換留学生を受け入れました。

過去5年間の日本語・日本文化研修留学生の出身国と専攻分野は以下の通りです。

出身…タイ、インドネシア、ブラジル、韓国、中国、ウクライナ、トルコ、キルギス、ロシアなど。

専攻分野…日本語学、日本史、日本文学、政治学、経済学、社会言語学、日本文化論など。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2024年：留学生数368人、日研生8人
2023年：留学生数368人、日研生4人
2022年：留学生数294人、日研生7人

④ 地域の特色

鹿児島県は日本列島の南端に位置し、世界遺産の屋久島や、活火山である桜島など、美しい自然があります。歴史的には16世紀のフランシスコ・ザビエルの来航、また幕末には英国に留学生を送るなど、海外との交流は古くから続いています。

大学がある鹿児島市は人口約60万人の県庁所在地で、ナポリ市（イタリア）やパース市（オーストラリア）、マイアミ市（アメリカ）と姉妹都市盟約を、長沙市（中国）とは友好都市を、ストラスブール市（フランス）とはパートナーシップ協定を締結しています。

気候も温暖で、年間を通して過ごしやすく、生活環境、勉学環境も整っており、快適な留学生活を送ることができます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

次のような研修留学生を募集します。

(a) 日本語能力（聞く・話す・読む・書く）をさらに伸ばしたい人。
(b) 日本文化や日本文学、日本社会、異文化コミュニケーションを中心に総合的に学びたい人。
(c) 鹿児島地域の文化、歴史に興味を持ち、研究テーマとして発展させたいと考えている人。

鹿児島大学では留学生の日本語能力に応じたきめ細かい指導を行っています。

また、鹿児島地域の歴史・地理・文化を学んだり、地域の人との交流活動を行い、深く日本や鹿児島を理解できるプログラムを提供しています。

③ 受入定員

8名（大使館推薦3名、大学推薦5名）

④ 受講希望者の資格、条件等

次の(a)及び(b)の条件を満たしている人が、このコースを受講できます。

(a) 外国の大学に 1年以上在籍し、日本語または日本の文化、文学、社会等に関する分野を主として学習している者。
(b) 日本語能力試験のN3以上に合格または同等の能力を有する者。

⑤ 達成目標

日本語能力試験で、来日時より 1つ上のレベルの合格を目標とします。また、日本語によるポスター発表、修了レポートの作成を達成目標としています。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2025年9月下旬～2026年8月下旬
（在籍期間：2025年10月1日～2026年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2025年10月～2026年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

（記載例）
9月下旬：渡日
10月：秋期オリエンテーション、授業開始
11月：大学祭
2月：授業終了
4月：春期オリエンテーション、授業開始
8月：授業終了、ポスター発表
修了式（2024年は8月9日に実施）
8月下旬：帰国　（2024年は8月25～30日）

⑨ コースの修了要件

規定の単位を取得し、日本語ポスター発表及び修了レポートを提出することが条件です。コース修了時には修了証を発行するとともに、受講した科目については成績証明書を発行します。

〈日本語能力向上コース〉

科目群	科目数	単位・時間
日本語科目	11科目以上	18単位 330時間 以上
文化科目		
自由選択科目		
参加型科目	1科目	—
修了レポート 発表	2科目	6単位 180時間
コース修了に 必要な単位数		24単位 510時間

〈日本語・日本文化研究コース〉

科目群	科目数	単取得単位数
日本語科目	6科目	10単位 300時間
文化科目	2科目	4単位 60時間
自由選択科目	2科目以上	2単位以上 60時間以上
参加型科目	1科目	—
修了レポート 発表	2科目	6単位 180時間
コース修了に 必要な単位数		20単位

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1）研修・コース科目の特徴

授業は原則として、秋期・春期各15週間開講します。留学生は、それぞれの日本語力、留学目的に合わせて〈日本能力向上コース〉と〈日本語・日本文化研究コース〉のどちらかを受講します。コースの選択は、プレースメントテストの結果をもとに、グローバルセンターの教員と相談して決めます。

2）研修・コース開設科目

A）必須科目・内容

〈日本語能力向上コース〉

日本語力に応じてグローバルセンターの日本語科目や文化の科目を中心に受講します。

日本語学修科目

会話：場面や相手に応じた会話のスタイルを学ぶ。
読解：読解に必要な技術を学ぶほか、要約、発表資料作成などを行う。
作文：レポート、論文作成の基礎を学ぶ。また先生や目上の人に送るような、やや改まったメールの書き方を学ぶ。

文化学修科目

日本社会と文化：日本の社会や文化について基礎的な知識を学ぶ。

修了レポート、ポスター発表
・各自、テーマにそった修了レポートを作成。
・修了時に、指導教員や日本人学生を招いてポスター発表を行う。

〈日本語・日本文化研究コース〉

グローバルセンターの日本語科目の他に学部の専門科目、共通教育の文化学修科目を受講します。

日本語学修科目

総合日本語：口頭発表の構成、構造を学ぶ。また、発表資料を作成する。
作文：論文レポートの書き方を学ぶ。

文化学修科目

日本事情：日本社会の諸相について学び議論する。

修了レポート、ポスター発表
・各自、テーマにそった修了レポートを作成。
・修了時に、日本人学生や職員、地域の人を招いてポスター発表（下記写真を参照）を行う。

B）選択科目・内容

〈日本語能力向上コース〉
〈日本語・日本文化研究コース〉共通

演習：指導教員のゼミに参加する。

法文学部、教育学部、共通教育センターで開講されている科目の中から選択して受講する。

科目例：アジア歴史・文化研究
日本近現代文学研究・近代文学購読
多文化交流論・国語学特講
社会言語学

3）研修科目で、地域の見学や地域交流等に参加できる科目及びその具体的な内容

地域行事への参加　（単位なし）
　小学校訪問や地域の国際交流行事に参加して、自国の紹介などを行います。

4）日本人学生との共修がある科目・内容

日本人学生と留学生の共修科目
・Intercultural Communication for Global Citizens：現代社会のさまざまな課題について議論する。
・Confronting Kagoshima Regional Issues：異なる文化的背景を持った外国人留学生と日本の学生が、現在鹿児島が抱える問題を多面的に考察し、調査し、発表する。

　上記の科目以外でも、共通教育科目ではアクティブラーニングを推奨しています。授業の中で日本人学生とディスカッションをしたり、プロジェクトワークを行ったりします。アクティブラーニングが授業に占める割合は、シラバスに記載されていますので、事前に確認することができます。

⑪ 指導体制

氏名職名）	所属	専門
和田　礼子 （教授）	グローバル センター	日本語教育 日本語文法
中島　祥子 （教授）	法文学部	日本語教育 異文化理解教育
梅崎　光 （准教授）	教育学部	日本語学 日本語の歴史
上谷　順三郎 （教授）	教育学部	国語科教育 近現代文学
市島　祐起子 （講師）	グローバル センター	日本語教育 社会言語学

研修留学生の専門分野に応じて、教育学部または法文学部の教員の中から指導教員を1名定め、学習・研究上のアドバイスを行っています。生活面の指導については、グローバルセンターと連携しながら行います。

■宿　舎

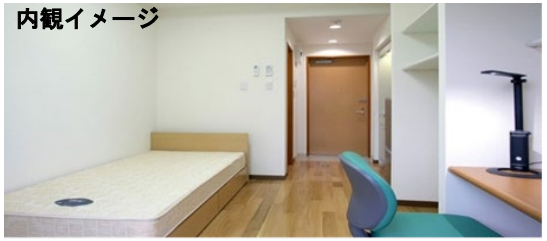
・鹿児島大学国際交流会館
　（郡元キャンパスまで徒歩15分）
　単身室　25,000円/月
　※光熱水費、インターネット接続料金が、別途必要です。
　※部屋の割り当ては本学が行います。
　※敷地内は禁煙です。

・過去3年間の日研生の入居状況

年度	人数	宿舎入居
2024	8	国際交流会館へ入居
2023	4	国際交流会館へ入居
2022	7	国際交流会館へ入居

外観イメージ

内観イメージ



■修了生へのフォローアップ

　日研生が帰国した後も、プログラム実施委員が必要に応じてメールで連絡を取っています。

【 修了生の進路（例）】
・日本や母国の大学院へ進学
・日本に再来日して就職
・母国で日本関連企業に就職

■問合せ先

＜担当部署＞
鹿児島大学学生部国際事業課
住所：〒890-0065
　　鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番30号
TEL　：+81-99-285-7325（直通）
FAX　：+81-99-285-7083
Email：ryugaku@kuas.kagoshima-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞
鹿児島大学グローバルセンター
　https://gic.kagoshima-u.ac.jp/
鹿児島大学
　https://www.kagoshima-u.ac.jp/

琉球大学（沖縄県）

青い空・青い海、色彩豊かな自然に囲まれた学習環境

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1)特色と歴史

琉球大学は沖縄が米軍統治下にあった1950年に創設、1972年の日本への施政権返還に伴って国立大学となった。日本唯一の亜熱帯島嶼地域という特性を活かし、熱帯地域の海洋、島の自然と文化、言語等の研究・調査が盛んな大学です。総合大学で、以下の7学部、8研究科がある。

学部	大学院
人文社会学部	人文社会科学研究科
国際地域創造学部	地域共創研究科
教育学部	教育学研究科
理学部	理工学研究科
工学部	
農学部	農学研究科
医学部	医学研究科
	保健学研究科
	法務研究科

2)教員・学生数（2024年5月1日現在）

教育研究職員数：729名

学部学生数：7,038名

大学院生数：763名

専門職学位課程：75名

② 国際交流の実績（2024年3月31日現在）

国際交流協定締結大学・機関数：
138大学・機関(44ヶ国・地域)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

（留学生数 2024年5月1日現在、
日研生数：2024年10月1日現在）

2024年：留学生数273人（41ヶ国・地域）
日研生4人（4ヶ国）
2023年：留学生数298人（50ヶ国・地域）
日研生2人（2ヶ国）
2022年：留学生数279人（41ヶ国・地域）
日研生2人（2ヶ国）

④ 地域の特色

日本の最も南に位置する沖縄は、1429年から1879年までの約450年の間、琉球王国という一つの国だった。また、第二次世界大戦後は1972年まではアメリカ軍の施政権下に置かれた。このように、日本本土と異なる歴史的背景を持つ沖縄は、歌や踊りなどの芸能、言語、食文化をはじめさまざまな文化が息づいている地域である。また、温暖な気候と美しい自然に恵まれ、国内有数のリゾート地となっている。空手の発祥地としても有名。

沖縄で学べば、「日本」全体を一つの文化圏ととらえる型にはまった視点からではなく多角的に日本をとらえることができるようになる。ぜひ沖縄の文化に触れてもらいたい。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a)主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

1)社会や文化の「比較」に重点を置いた研修を行う中で、日本の社会や文化全般と沖縄独特の社会や文化について理解を深めることができる。
2)研究に必要な日本語の高度な運用力、正確な読解力と文章構成力の養成を行い、日本語学や日本の社会、文化の研究手法や知識を身につけることができる。
3)専門の教員に指導を受けつつ、興味のある分野について知識を深めることができる。同時に、様々な関連分野についても学べる。
4)座学のみならず、地域の教育機関や文化施設への見学、体験学習など、様々なアプローチで日本および沖縄を学ぶことが可能。
5)日本人学生と積極的な交流も図り、授業だけでなく大学生活の中で日本を学ぶことができる。サークル活動に参加すれば、より友人の和が広げられる。

③ 受入定員
14名（大使館推薦10名、大学推薦4名）

④ 受講希望者の資格、条件等
日本国以外の大学の学部に在籍（主に3年次以上）し、日本語・日本文化に関する分野を主専攻にしている者。日本語力はJLPTのN2以上の能力があることが望ましい。また日本と母国の架け橋なることを目標の１つとしている者。

⑤ 達成目標
1) 日本語母語話者の大学生並みの文章が書け、口頭発表ができるようになること。
2) 日本語を用いて日本語や日本文化に関する研究ができる能力を身につけること。
3) 修了論文を作成し報告会で発表すること。

⑥ 研修期間（在籍期間）
研修期間：2025年9月下旬～2026年8月下旬
在籍期間：2025年10月1日～2026年8月31日
※9月末の指定日に来日できること。

⑦ 奨学金支給期間
2025年10月　～　2026年8月

⑧ 研修・年間スケジュール
9月下旬：渡日（2024年は9月24日）
10月 オリエンテーション、留学生歓迎会、市場見学
11月 沖縄地域留学生交流会（パーティー）組踊鑑賞会、沖縄そば作り体験
12月 グローカルフェスティバル、中城城址公園、浦添ようどれ見学
1月　泡盛工場見学、ぶくぶく茶体験学習着物の着付け体験
2月　茶道体験学習、沖縄県日本語弁論大会
3月　いちご狩り、博物館・美術館見学
4月　研究レポート中間発表、シーサー作り
5月　埋蔵文化財センター見学、放送局見学
6月　平和祈念公園。ひめゆり祈念資料館見学
7月　サンゴの苗作り、和菓子作り体験学習
8月　浴衣の着付け体験学習、レポートの完成、研究発表会、修了式
8月下旬　帰国（2024年は8月30日）

⑨ コースの修了要件
所定の課程（年間448時間以上、必修科目20単位、必修選択科目8単位取得）の研修を終え、研究レポート等を提出すること。指導教員とプログラム実施委員がその成果を認めた者が修了となる。
【修了研究の内容】
学期中は週に1回、「課題研究Ⅰ・Ⅱ」「課題研究Ⅲ・Ⅳ」の授業の中で指導を受けながら進める。授業内で定期的に進捗状況を口頭発表形式で報告する。研究成果は7～8月頃に開催する最終発表会で口頭発表を行い、レポートにして提出する。
【単位認定】
受講した科目については単位を出す。研修期間内に履修した科目については、成績証明書と履修内容等を記した文書・シラバスを出す。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色
１）研修・コース科目の特徴
全学習を日本語で行い高度な日本語力を習得するだけでなく、多角的に物事を捉え分析する思考力を養い日本を通して自国や多様な世界を見る広い視野を持つ人材の育成を特徴とする。授業は原則として、前期・後期各16週開講する。1学期につき224時間(112コマ)以上履修しなけれならない。

２）研修・コース開設科目
Ⅰ）必須科目（1学期80コマ、160時間）・内容

授業科目名	内　　容
課題研究Ⅰ・Ⅲ	図書館の利用法 、 資料の検索方法を学び 、 研究レポートを作成する。また研究発表のプレゼンテーション技能の養成を行う。
課題研究Ⅱ・Ⅳ	講義形式ではなく教員の助言を受けながら、自身が設定した研究テーマについて受講生が自発的に研究活動を行いレポート執筆することを目標とする。
日本語文章表現Ⅰ・Ⅱ	改まった文の書き方、論文の書き方（アカデミック・ライティング）を学ぶ。
日本文化特別研究Ⅰ・Ⅱ	伝統文化から現代の社会的な状況や現象を把握したり理解したりするとともに、文化とは何か分析・考察するなど、思考力を養う。学外見学あり。
琉球文化特別研究Ⅰ・Ⅱ	琉球王国時代から現代までの歴史的背景や社会的な変遷等を通して沖縄人とは、沖縄文化とは何かを学ぶ。学外見学あり。

※年間スケジュールで示した見学や体験学習を授業や課外に行う

Ⅱ）選択科目（1学期　32コマ以上、64時間以上）
※選択必修科目(1)：
4科目の内各学期最低1科目履修

授業科目名	内　　容
国際事情Ⅰ・Ⅱ	主に20世紀後半の世界の出来事を振り返り、これらが現在の状況とどう結びついているのか、学び・考える。
日本文化論Ⅰ・Ⅱ	日本文化論の代表的な『茶の本』『武士道』などを通して日本文化について考

※選択必修科目(2)：
4科目の内各学期最低1科目履修

授業科目名	内　　容
日本語演習Ⅰ・Ⅱ	実際の日本語の現象を注意深く観察し 、 日本語学の 基礎となる知識を深める。
日本語作品講読Ⅰ・Ⅱ	文学作品の語彙表現、ストーリー展開について理解を深め作品が生まれた社会背景等についても学ぶ。

※その他の選択科目等
他の留学生とともに学べる日本語科目や、沖縄ならではの科目（（4)を参照）も受講可能である。

３）研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容
　前述の「日本文化特別研究Ⅰ・Ⅱ」「琉球文化特別研究Ⅰ・Ⅱ」では、見学や体験学習も行う。

【主な見学先】（実績）
　首里城、平和祈念公園・資料館、中城城址、
　酒工場、牧志公設市場、テレビ局、埋蔵文化財センター、県立博物館・美術館、やんばるの自然等
【体験学習】（実績）
　組踊の鑑賞、茶道体験、シーサー作り、和菓子作り、沖縄そば作り、ぶくぶく茶、着物・ゆかた着付け、いちご狩り等
【ゲスト・スピーカー】（実績）
　琉球史研究家、新聞記者、オリオンビール社員
　泡盛マイスター
【地域交流】西原町グローカルフェスティバル、
　沖縄県主催の外国人による日本語弁論大会出場、
　全国の弁論大会への参加等

４）日本人学生との共修科目及び具体的な内容
　グローバル実践演習という共修科目が提供されているほか、学生の日本語力や専門分野、興味・関心に応じて、学部授業も受講可能である。それらの授業を選択することで、日本人学生と共修することができる。

【沖縄ならではの科目】

授業科目名	内　　容
空手	沖縄発祥の空手の基本を通して体幹、下肢、メンタル強化等の身心機能の向上を図る。
うちなーぐちあしび	うちなーぐち（沖縄語）に関する基礎知識を学び、文型練習を通して話したりしながら、沖縄語に親しむ。
琉球学入門	琉球の歴史、文化、言語、自然環境等の地域特性と多様性について理系・文系の教員が担当するオムニバス形式の授業。
現代沖縄地域論	「沖縄」地域の特性や課題についてそれぞれの専門家を講師としてオムニバス形式の授業を行う。

⑪ 指導体制

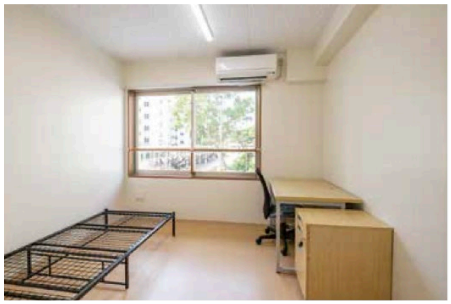
　日研生は国際地域創造学部に所属し、下記の指導教員が学業、生活両面にわたって必要に応じて個別に指導にあたる。下記の教員以外にも国際教育センターと国際地域創造学部、人文社会学部の適切な専門分野の教員にも研究指導に関して協力をお願いする。また、日本人学生がチューターが一人ずつ付き、学習や生活のサポートをする。

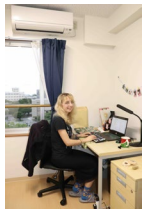
【プログラム実施委員】
金城尚美　国際地域創造学部
　教授（日本語教育・教育工学）
金城克哉　国際地域創造学部
　教授（言語学・日本語教育）
渡真利聖子　グローバル教育支援機構
　講師（日本語学・日本語教育）

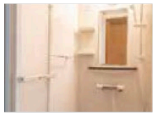
■宿　舎

○キャンパス内の学生寮（日本人学生と共用）に入寮する。
（動画：新棟 3D表示-YouTube）

【室内設備】机、椅子、棚
【共同設備】シャワー室、洗濯室、
Wi-Fiアクセスポイント、ラウンジ
※ベッドのマットレス、布団、枕等は備え付きではありません。







（写真：新棟）

【留学生宿舎、民間アパートの費用（月額）】

		寄宿料	維持費	ガス・水道	電気
学生寮	一般寮	¥10,000	¥9,400（ガス・水道含む）		使用実績額
		¥15,000	¥5,000	使用実績額	
	混住棟	¥15,000	¥9,400（ガス・水道含む）		
	新混住棟	¥20,000	¥5,000	使用実績額	
	新棟	¥25,000	¥5,000	使用実績額	
民間アパート		￥35,000程度		使用実績額	

■修了生へのフォローアップ

①修了生の主な進路
1）就職：日系企業（日本国内または母国）、貿易会社経営、母国での通訳やガイド、翻訳者、JETプログラムの国際交流員、外国語教師、大学の教員・研究員、日本でのタレント活動、日本文化紹介番組のナビゲーター
2）進学：琉球大学または国内外の大学院。国費の研究留学生として再来日するケースも多い。
②フォローアップの実績
メールやFacebookの日研生同窓会ページ等で連絡を取りあっている。

■問合せ先

＜担当部署＞
琉球大学国際教育課
住所：　〒903-0213
　　沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
TEL：　+81-98-895-8103（直通）
FAX：　+81-98-895-8826
E-mail：　koshien@acs.u-ryukyu.ac.jp

＜ウェブサイト＞
琉球大学国際教育センター留学生ユニットHP
日研生ページ：　http://isu.skr.u-ryukyu.ac.jp/future-students/nikkensei/
琉球大学HP：　http://www.u-ryukyu.ac.jp/

神戸市外国語大学 （兵庫県）

ていねいな指導と学びに適した環境で日本、神戸を体験しよう

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

神戸市外国語大学は、1946年に前身となる神戸市立外事専門学校として開学し、1949年に現在の神戸市外国語大学となりました。公立大学として、文化・教育の面で、地域社会・産業の発展に貢献するため、外国の言語の習得を通して、その言語が使用されている地域の文化・政治・社会・法律・経済などの幅広い視野から研究することを理念としてきました。

本学は、英米学科、ロシア学科、中国学科、イスパニア学科、国際関係学科の5学科を擁する単科大学ですが、所属学科に関わらず履修できる共通科目では、日本語や日本文化を客観的に分析・研究する科目を含む、さまざまな授業を提供しています。さらに、日本語・日本文化に関するより高度な知識の取得を希望する学生は、再留学し本学大学院で研究を継続することが可能です。

学生数：2192人（2024年5月1日時点）
※うち大学院生：106人
教員数：80人 （2024年7月1日時点）

② 国際交流の実績（2024年5月1日現在）

17ヵ国48大学・機関との交流協定締結による教員交換、学生の派遣・受入や、13ヵ国17大学・機関との学術研究交流、各種国際交流活動の支援などを実施しています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2024年度：留学生85人、日研生2人
2023年：留学生数97人、日研生1人
2022年：留学生数93人、日研生2人
※うち交換留学生は毎学期25人程度在籍しています。

④ 地域の特色

神戸は、美しい海と山に囲まれた自然が豊かな地域で、人口は約150万人と日本でも有数の大都市です。古くから港町として発展してきたため外国人住民が多く、外国人コミュニティの活動も活発で国際色豊かな都市として知られています。その一方で、日本を代表する日本酒の蔵元が点在していたり、日本三古湯のひとつである有馬温泉があるなど、日本の伝統も息づくまちです。

また、神戸がある関西地域は交通の便がよく、数多くの歴史的名所が存在する日本の古都である京都や奈良、関西の商業の中心を担う大阪などへも日帰りで訪れることができます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

日研生は、日本語プログラムで海外大学からの交換留学生と一緒に学びます。

☆学生一人ひとりの能力をのばすきめ細やかな指導☆

プレイスメントテストと個人面談により、学生の日本語能力に応じた履修指導をします。教員との距離も近く気軽に質問できる環境です。

☆日本事情の授業☆

週1回の日本事情の授業では、日本社会や文化などについて学びます。また、自分の国や自分の国の文化・言語等について日本語を使って紹介する時間も設けられています。

☆フィールドトリップ☆

1学期につき、2回程度開催します。近年は鳥取砂丘や岡山城を訪れたり、お寺で写経や生け花の体験をしたり、精進料理を食べたりしました。

☆日本人学生による生活サポート☆

学生1人につき、2～3人の神戸市外国語大学の学生がパートナーとなり日常生活のサポートを行います。

③ 受入定員　3名（大使館推薦3名、大学推薦0名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- 海外の正規学部生であること。
- 英語能力がCEFR B1, IELTS 4.5, TOEFL iBT 60 と同等以上であること。
- 日本語既習歴が、おおむね500時間以上であること。日本語能力が中級程度（日本語能力試験N3合格レベル）以上であり、N2あるいはN1を目指すレベルであること。
- 学習に意欲的で、日本語・日本文化への強い関心があること。

⑤ 達成目標

- 日研生は主に中級後期/上級のコースに入り、JLPT N2あるいはN1合格に相当する日本語能力を習得すること
- 日本社会や文化への知識や理解を深めること

⑥ 研修期間

2025年9月19日 ～ 2026年8月上旬
（在籍期間 2025年9月1日 ～ 2026年8月31日）

※2025年9月4日(木)が住居入居指定日です。
※修了式は2026年8月上旬を予定しています。

⑦ 奨学金支給期間

2025年9月 ～ 2026年8月

⑧ 研修・年間スケジュール（近年実施例）

【秋学期】
9月上旬：来日、住居入居
9月中旬：オリエンテーション、秋学期開講式
10月：　留学生歓迎会（秋）
　　フィールドトリップ（岡山県）
11月：　学園祭、語劇祭
12月：　フィールドトリップ（生け花・精進料理）
　　交流イベント（京都・茶道体験）
2月：　期末テスト、秋学期修了式

【春学期】
4月：　春学期開講式
　　留学生歓迎会（春）
5月：　フィールドトリップ（鳥取県）
6月：　フィールドトリップ（写経・精進料理）
7月：　交流イベント（京都・和菓子作り）
　　期末テスト（日本語プログラム）
8月上旬：春学期修了式
　　期末テスト
　　（学部授業）
8月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

履修登録をした日本語プログラム科目に合格すること。
（少なくとも16コマ480時間の履修が必要）
※成績証明書は修了後本人に送付します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1）研修・コース科目の特徴

- 日本語プログラムの授業は、秋学期（9～2月）、春学期（4～8月）です。
- 来日後にプレイスメントテストと個人面談を行い、日本語レベルに応じた履修指導をします。
- 授業は90分で、1学期につき15週あります。
  *授業時間数は、1コマ2時間（予習・復習の30分を含む）で計算し、1コマ合計30時間を1学期につき学習します。1コマ=1単位。

2）研修・コース開設科目

Ⅰ）必須科目
☆日本語：6コマ/学期
※日本語を集中的に学習する科目
※「聴解」、「読解」、「会話」、「作文(上級コースはレポート作成のクラスを含む場合がある)」、「文法」(2コマ)のクラス
☆日本語漢字：1コマ/学期
☆日本事情　：1コマ/学期

Ⅱ）選択科目
☆ビジネス日本語：1コマ/学期

※このほか、学部の授業を履修することも可能です。

3）見学、地域交流等の参加型科目

日本の文化・歴史についての理解を深めるため、フィールドトリップを学期に数回実施しています。防災・健康管理オリエンテーションでは、1995年の阪神・淡路大震災の資料館を訪問します。

4）日本人学生との共修の機会

海外大学からの留学生は、日本語のクラスに加えて、学部授業も学部生と一緒に受講することができます。（使用言語は主に日本語となるため、上級レベルの日本語能力が必要です。）

授業の内容は、諸地域の言語、言語学、文学、文化、歴史学、法学、商業、経済学、教育、心理学など幅広い分野に渡ります。

【過去の日研生の履修科目】
・日本文化論
・社会心理学入門
・通訳演習
・倫理学入門　など

希望する学生は、クラブ活動などに参加することもできます。本学学生と一緒に武道や茶道などを学んだり、クラブの先輩から教えてもらったりすることができます。
（学内に茶室、弓道場、武道場の施設があります。）

5）その他

■ 「GAIDAI Chat」
留学生の母国語でおしゃべりをして交流を深める場です。各国の文化や生活様式、音楽やスポーツなど、気軽に意見交換ができます。

■ さまざまな講演会に参加可能
学内で開催される、本学客員教授や外部講師による講演会に無料で参加できます。

⑪ 指導体制
・岩男考哲
（教授、国際交流センター副センター長、日本事情担当、専門：日本語学）
・勝田千絵、山口貴史
（日本語講師、日本語プログラムコーディネーター）
・日本語非常勤講師3名

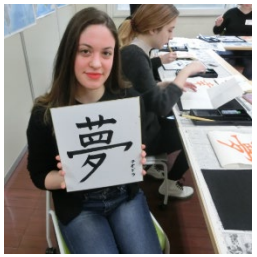
■宿　舎

初期費用：　60,000円
家　　賃：　300,000円/学期
※学期初めに360,000円を払います。ただし、必要に応じて、分割払いができます。

宿舎は、2種類あります。
どちらも家具・キッチン・インターネットつきの1人部屋です。アパートは、大学から歩いて15分、またはバスで10分のところにあります。

■修了生へのフォローアップ

- これまでに本学で学んだ修了生の中には、母国の企業で日本語の通訳者として活躍している人もいます。また、帰国後に再来日し神戸市外国語大学大学院への進学を希望している学生もいます。
- 神戸市外国語大学への再留学を希望する学生は、必要に応じて支援します。



■問合せ先

＜担当部署＞
神戸市外国語大学国際交流センター

住所：〒651－2187
兵庫県神戸市西区学園東町9丁目1

TEL：　+81-78-794-8171（直通）
FAX：　+81-78-794-8178
Email：international-office@office.kobe-cufs.ac.jp

＜ウェブサイト（日本語）＞
神戸市外国語大学：
http://www.kobe-cufs.ac.jp/

国際交流センター：
http://www.kobe-cufs.ac.jp/international/center/

日本語プログラム（JLP）：
https://www.kobe-cufs.ac.jp/international/japanese_language_program.html

青森中央学院大学（青森県）

日本語学習と日本文化・地域交流が体験できる研修プログラム

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

青森中央学院大学は青森市にある大学で、1998年に開学しました。日本で初めて「経営法学部」という学部を作り、時代のニーズに合わせた教育を行っています。また、大学院には地域マネジメントを学ぶコースや研究所もあります。

2014年には看護学部ができ、看護師や保健師を育てるための教育も始めました。

青森中央学院大学は、専門的な仕事に必要なスキルを身につける教育や、国際交流、地域社会への貢献に力を入れています。特に国際交流や地域貢献の活動は国際交流センターを中心に行い、高く評価されています。

さらに、ラーニングコモンズやアクティブラーニング室、学生ラウンジなど、学生が勉強しやすい環境も整えています。

春のキャンパス

大学内の桜並木は4月中旬頃に満開になります。

大学図書館

静かなサイレントスペースと、グループワークを想定したラーニングコモンズに分けられます。

② 国際交流の実績

海外機関との協定校数：52校・1機関
うち大学間交流協定数：21校

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2024年：留学生数84人、日研生1人
2023年：留学生数79人、日研生1人
2022年：留学生数84人、日研生1人

④ 地域の特色

青森市は、本州の一番北にある青森県の県都で、約27万人が住んでいます。

市内には青森空港があり、東京や大阪など日本国内のほか、韓国の仁川や台湾の台北とも飛行機で行けます。また、新幹線の新青森駅があり、青森から東京まで簡単に移動できます。

自然が豊かで四季を楽しむことができます。農林水産業も盛んで、特に「青森のりんご」は世界でも有名です。人々は優しく親切で、物価も安いので、留学する人にとっても生活しやすい環境です。

三内丸山遺跡　縄文体験

青森市　城ヶ倉大橋（秋）

青森市　八甲田（冬）

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b）主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

（1）日本語の学習等

日研生は、経営法学部に所属し、自分の能力に応じた日本語クラスで学習します。日本語クラスは、初級から上級までレベル別で編成されています。

日本語以外にも経営法学部で開講されている専門科目を受講することができ、研究テーマに応じて経営系や法学系の学習をすることもできます。

また、日本語担当教員が指導教員として指導にあたるため、きめ細かな指導を受けることができます。

（2）日本文化・体験研修等

年間約50回の国際交流活動・日本文化体験活動・農林水産業体験活動・ホームステイ等のプログラムを用意しており、地域の人々と様々な交流活動をすることができます。

③ 受入定員

2名（大使館推薦1名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

・ＪＬＰＴ：N2級以上に合格していること。
・日本語又は英語で会話が可能であること。

⑤ 達成目標

・コース修了者はN1程度のレベルに達すること。
・文法力、会話表現、言葉遣い、ヒアリング等が適切に使えること。
・日本語・日本文化研修の結果をまとめ、レポート等にまとめること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2025年9月下旬　～ 2026年8月下旬
（在籍期間：2025年10月1日～2026年8月31日）
※修了式は2026年8月下旬を予定しています。

⑦ 奨学金支給期間

2025年10月　～　2026年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月：渡日（2024年は9月17日～18日）
　　オリエンテーション
10月：青森体験（奥入瀬渓流・十和田湖紅葉狩り）
11月：青森体験（りんご狩り）
　　地域交流体験（農家民泊）
　　語学講座（日本人学生への母国語紹介）
12月：学生交流会（クリスマスパーティー）
1月：日本文化体験（雛人形飾りつけ）
　　定期試験
4月：入学式・健康診断・学生会館合同歓迎会
　　青森体験（観桜会）
5月：学生交流会
　　語学講座（日本人学生への母国語紹介）
7月：日本文化体験（七夕飾り作り）
　　留学生全体ガイダンス
7月下旬～8月上旬：定期試験、研究レポート完成
8月：青森体験（ねぶた祭）
　　日本語・日本文化研修修了
　　修了式
8月下旬：帰国（2024年は8月27日）

母国語講座

修了式

⑨ コースの修了要件

・日本語必修科目3単位、選択科目8単位を取得すること。
・指導教員による演習を修了すること。
・日本文化・青森文化体験や地域交流体験に5回参加すること。
・必要単位を取得し、体験活動も行い、到達目標に達した場合、修了証書（日本語・英語）を発行します。
・成績証明書を発行することができます。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

シラバス
https://upass.aomoricgu.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp
授業は全て日本語で行われます。

１）研修・コース科目の特徴
　日研生はN2レベルあるいはN1レベルの文法・語彙を学ぶクラス（日本語Ⅲ、学術日本語）、レポートの書き方を学び実際にレポートを作成するクラス（日本語Ⅳ）、ビジネス日本語のクラスのうち2つを前・後学期で1つずつ取ることになります（最初に取るクラスはプレイスメントテストの結果によります）。日研生として書く最終レポートは日本語担当教員がきめ細やかに指導します。

観桜会

りんご収穫体験

農業体験

青森ねぶた祭

２）研修・コース開設科目
Ⅰ）必須科目（時間数・内容）
・日本語Ⅲ　120時間（N2程度の文法/読解/作文）
・日本語Ⅳ　60時間（読解/作文/ﾚﾎﾟｰﾄ作成）
・学術日本語　60時間（N1程度の文法/読解/ﾚﾎﾟｰﾄ作成）
・ﾋﾞｼﾞﾈｽ日本語　15時間（仕事上で使う日本語を学ぶ）

Ⅱ）選択科目（時間数・内容）
前学期開講科目
・暮らしと地域　30時間（地域学習）
・日本の政治と経済　30時間（日本の政治と経済を学ぶ）

後学期開講科目
・暮らしと経済　30時間（地域学習）
・日本の歴史と文化　30時間（日本の歴史と文化を学ぶ）
・日本の社会　30時間（日本の社会を学ぶ）

３）研修科目で地域の見学や地域交流等に参加出来る科目及びその具体的な内容

　インターンシップや地域密着型の課題探求科目があります。

４）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

　選択科目の「暮らしと地域」と「暮らしと経済」は共修科目です。
　日本人学生が「国際交流学生チューター」として、留学生を支えます。特に最初の半年は1人1人に担当の「バディ」がつくので、青森での生活や授業に関する不安も解消されるでしょう。

日本語授業の様子

⑪ 指導体制

日本語担当教員：田中　真寿美　准教授
　　里見　文　講師
日本語教育スタッフ：兒玉　晴代
日本文化・体験研修等担当教職員：
　藤巻　啓森　　国際交流センター長・教授
　寺井　和夫　　国際交流担当次長
　金川　利江子　国際交流課課長
留学生チューター：同じ国の先輩留学生が日常生活上の指導・助言等を行います。
国際交流学生ﾁｭｰﾀｰ：日本人学生との交流や行事等を通して有意義な留学生活になるよう支援します。

チューター制度紹介

https://www.aomoricgu.ac.jp/international_exchange/foreignstudent/tutor_system

バディの日本人ﾁｭｰﾀｰ(左)と留学生(右)

■宿　舎

　日研生はキャンパス内にある学術交流会館に入寮することができます。学部生は全員2人部屋を使用します。

●学術交流会館

2DK（ルームシェア）：個室設備

エアコン（冷暖房）、ベッド・洋服タンス、机・イス・本棚、コルクボード・ゴミ箱、スリッパ・防災セット、カーテン、インターネット環境

2DK（ルームシェア）：共有設備

ユニットバス、シャワーカーテン、シューズボックス、キッチン（IHﾋｰﾀｰ付）、食卓テーブルセット

会館共用設備

カフェテリア（1階）、コインランドリー（各階）

備考

・門限等、集団生活に必要な規則があります。
・各自の部屋は自分で清掃します。洗濯機､石油ストーブの持込みは厳禁です。
・調理には備え付けのIHヒーターを使用してください。ガスコンロの使用は厳禁です。
・電気代は日研生負担です。
・水道・ガス・インターネット料金の請求はありません。

学術交流会館紹介動画

https://youtu.be/5_IBeRiXme8?si=QEzt5IGuIO9NdFBR

寮費は渡日前に11ヶ月分、外国送金してもらいます。
　寮費：330,000円(2025年10月～2026年8月)

学術交流会館

2DK間取り

■修了生へのフォローアップ

　修了生にはFacebookなどを利用し、大学の情報を提供、双方向の交流を継続しています。
　また、海外同窓会のメンバーとして、帰国後も交流を進めています。

正門

■問合せ先

＜担当部署＞
青森中央学院大学国際交流課

住所：〒0300132
　　青森県青森市大字横内字神田12番地

TEL：+81-17-728-0131（代表）
FAX：+81-17-738-8333
Email：international@aomoricgu.ac.jp

＜ウェブサイト＞
青森中央学院大学：
https://www.aomoricgu.ac.jp/

青森中央学院大学国際交流センター
公式 Facebook：
https://www.facebook.com/acguiec
公式 You Tube：
https://www.youtube.com/channel/UCmbBt90406nIqLh35gu6ISg